

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

モンゴル国営農場

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小長谷, 有紀, S. , チョローン メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00008877

モンゴル国营農場

- | | |
|------------------------------------|-----------|
| 1. 所在地の現アイマク・ソム名
(便宜的に県・郡としておく) | 5. 貢献者 |
| 2. 設立年 | 6. 統計関係 |
| 3. 閉鎖年 | 7. 特徴的な歴史 |
| 4. 場所の選定等の経緯 | 8. 関係書籍 |

1) バヤンノール国营農場

1. バヤンウルギー県バヤンノール郡。
2. 1961年の閣僚会議第57議決により設立された。
3. 1992年。
4. バヤンノールという地名で名称された。
5. 1991年に労働英雄となったヤギ牧民 I. Sasuizbai が働いていた。
6. 設立当時、自動車7、トラクター6、セヤルカ7、ジャガイモ植え付け機3、発電所2、労働者68人、フェルト製住居8張だった。設立年に158頭の牝ウシで酪農場をつくり、飼料を与えるため、316.7haの穀物、45.7haのジャガイモや野菜、38haの飼料作物を作付した。1962年、養鶏場をつくり、その頃、318haを開墾し、繁殖用家畜（去勢牡をのぞく）としてウシ1,374頭、ヒツジ2,544頭、ウマ402頭、合計4,320頭となった。
7. バヤンウルギー県にあるソム用の飼料農場。
8. Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更（1991-1997）』
A. Minis 1969 『バヤンウルギー県史』

2) ノゴーンノール飼料農場

1. バヤンウルギー県ノゴーンノール郡。
2. ノゴーンノール郡をツァガーンノール郡の第1、第5、第6、第8、第14バグ（郡の下部単位）の構成で1952年に設立した。面積5,200km²、人口6,539の90%がカザフ族である。1968年にバヤンウルギー県の各郡に干し草を供給する目的で設立された。
3. 1992年に民営化された。

4. 当郡のノゴーン湖にちなんで命名された。
- 5.
6. 1976年、この飼料農場には75戸の501人が働いていた。ウマ1ソーリ（ブリガードの下部単位）、ヒツジ・ヤギ4ソーリ、2,618.9トウグルグの資産があった。
7. ノゴーンノール郡にはモンゴル国の第3番の市場特別区域となるツァガンノール特別区域があり、ここで国内や海外の投資を集め、西方地域の発展に多に影響を与える、重要な区域である。
8. A. Minis 1969『バヤンウルギー県史』

3) ボヤント飼料農場

1. ホブド県ボヤント郡。
2. 1922年当時、サンギーン・タリヤーラン（国営農場）の名称で設立された。1922年に清朝ホブド公民を故郷に返して貴族の所掌にさせようとしたが、貧乏な農民たちは牛車や馬車が足りないで慣れた場所で生活したいと要請した。この要請を受けてJamsran貝子の支配下でタリヤーラン村にしたのが、現在のボヤント郡の起源である。
1931年にチャンダマニオール県をホブドとウブスの2県に分けた際にはホブド県はボヤント、バヤンハイルハン等12郡になり、ムンフハイルハン、ウインチ、ボルガン等の旗が設立される際にはナランハイルハンオール旗からボヤント郡を設立し、ツァガンボルガスを中心地とする行政区となった。
1931-1932年にボヤント郡に「ネグテゲリーン・ウラーン・ザム（統一的赤の道）」やバヤンハイルハン、サンギーン・タリヤーラン等の集団が設立され、党が設立され活動をしていた。1942年にボヤント郡からドート郡を分離し、1952年にボヤント郡の第10バグと第13バグを5つの地区にし、ジャラガラント市の人民代表会議の実行委員会を設立した。1932年にボヤントの「ネグテゲリーン・ウラーン・ザム」が閉鎖したあと、ボヤント郡の党員T. Deremを代表とするネグデル（以下、牧畜協同組合という邦訳で統一する）が設立され、1937年に最初の牧畜協同組合となった。その後、17番という国家印章のもとで活動を開始し、以来、その地域にボヤントの17牧畜協同組合と呼ばれたのが、「ソヨル」牧畜協同組合の始まりだった。
1957年にボヤント郡はバートルハイルハン、ボヤントの2つに分かれ、バートルハイルハン郡は「ジャルガラント・アミダラル（幸福な生活）」、「ウラーン・トグ（赤旗）」という牧畜協同組合でジャルガラント市近くボヤント川沿いに中心地を置いた。

「ソヨル」牧畜協同組合は1959年に上記2つの牧畜協同組合を合併し、1960年には5つのブリガードが活動していた。1958年、郡の中心地だったツァガンボルガスで地下水があふれたため、インフラ設備ができないと判断し、中心地は県庁所在地に移動した。1978年代から飼料農場となった。

3. 1993年。
4. モンゴル人民共和国閣僚会議の1978年の第307議決により、ボヤント郡の飼料農場と研究ステーションを合併させることになり、1979年8月には「ゾルガーギーンガザル」というところに移動した。ボヤント川沿いの旧官営農場のあったところである。
5. N. Bulgaa は1,137ツェントネル (=100kg) のキャベツ, J. Tsetsgee が455ツェントネルのカブラ, T. Erbuyan が376ツェントネルのサイロ用牧草を収穫し、国や県の上位を記録した。飼料農場長に S. Jambardorj や T. Ochir などが任命された。
6. 1932年には、小麦、燕麦などの穀物を1,100ha、えんどう豆32ha、諸野菜2ha 合計1,134ha を作付した。
7. 1716-1717年、清朝皇帝より、ホブド川に沿って穀物栽培地を作るべく命令があった。これを実行するために、(モンゴル人) 兵士400世帯、中国人100世帯を農耕に従事させ、872頭の去勢ウシで構成した。1923年、彼らが使っていた耕地や用水路を利用する目的で、ホブドの国営農場(サンギーン・タリャーラン) という名称で復活させ、耕作させた。1939年に首相命により、ホブドのステーションと統合し、1943年に再び国営農場(SAA) になった。
8. D. Gongor 1964『ホブド簡史』

4) オラントルゴイ国営農場

1. オブス県オラントゴム市。
2. 1979年からチャツアルガナを植え始めた。
3. 1990年代からチャツアルガナ会社になった。
4. オグズム峠の南にあるオラントルゴイという丘陵周辺に設立した。
5. 国営農場長として S. Dechinpil, Tuvaanii Tseveen ら (1980-1983) が働いていた。総合農業技師として Halzangiin Tseveegee が働き、大いに発展させた。
6. 1979年からチャツアルガナを植え始めたが、1983年までまったく収穫がなかった。1984年に初めて6t、1985年に36t、1986年に86tと発展し、平均して360tの果実、ジャガイモや野菜、穀物を大いに収穫できるようになった。当時、チャツアルガナの栽培面積は360haに達し、500haの灌漑システムのうち475haが機能していた。設立当初は260人が働いていた。

7. 機械技術班班長の T. Dügersüren, Yu. Galsan, 機械技術者の Kh. Rentsensambuu, 経
理 M. Jigmed, J. Jigmed, 庭師 R. Jargal, D. Narantuya, M. Orolgoor, M. Yanjindulam, Ts.
Tsetsegbal, B. Tümenbayar, トラクター運転手 R. Buia, Ts. Ölziitogtoh, A. Myagmar,
J. Khüükhenjav などが働いていた。
1989年に B. Laagan, B. Bat-Ochir, D. Yanjiv, J. Geezen の 4 人が国家賞, S. Dechinpil
が労働荣誉赤旗勲章, D. Volooj が北極星勲章を授与された。
8. N. Sükhbaatar ほか2006 『わたしの好きなオラーンゴム』
R. Adiya 2003 『オブス県地名簡事典』

5) ハルヒラー飼料農場

1. オブス県タリヤーラン郡。
2. 1979年に飼料農場の前身を設立した。1982年にハルヒラー飼料農場を設立した。
3. 1992年。
4. ハルヒラー・トゥルゲン川沿いに設立した。
- 5.
6. 飼料農場は家畜飼料を作る目的だった。3,000余 ha のうち, 毎年2,000-2,500ha に
穀物や家畜飼料を植えた。毎年7,000-11,000tの混合飼料を作ることのできる工場
だった。
全耕地を現代的な灌漑システムでおこなっていた。ハルヒラー川からくみ上げ,
あるいは水を溶かし, 250-1,000ミリの直径で, 土壤に2メートルの散水機で灌水
する。54時間で一周し, 72-92haを灌漑する。
7. この飼料農場ではもっぱら地元の民族集団であるドルベド, ホトン, バヤトが働
いていた。ハルヒラー飼料農場は現在, オブス県タリヤーラン郡の一部になっ
ている。伝統的な文化, 習慣でモンゴルでも特徴的であるホトンがタリヤーラン郡
の総人口の85.6%を占め, ホトンの先祖の地である。歴史上ではオイラトのガル
ダン・ボシヨグト王が農業をさせるために東トルキスタンのホータンから200世
帯を移動させたことでモンゴルにホトンが住み始めたとされている。
8. R. Adiya 2003 『オブス県地名簡事典』

6) テス飼料農場

1. オブス県テス郡。
2. 1975年に飼料農場が設立された。
3. 1992年に閉鎖された。

4. オグズム峠の南側にあるオラントルゴイという小丘の周辺に設立された。
5. テス飼料農場の農場長に何人かが任命されたうち、Dashiin Gombosürenが15年間勤め、当該期間に郡の発展に大きな影響を与えた。
- 6.
7. テス郡のドゥンダ・ボ、ツァガーン・ブラー、シャル・ホトゴルにジャガイモや野菜を作っている。
8. R. Adiya 2003『オブス県地名簡事典』

7) バロントローン国営農場

1. オブス県バロントローン郡。
2. 1930年モンゴル人民共和国第6回人民大会議により国営農場を初めて設立した。1931-32年に極左派による失敗のため、いったん1933年に閉鎖した。モンゴル人民革命党中央委員会、閣僚会議の1943年6月23日の第30/36議決により、当ステーションを穀物栽培と牧畜を営むためにバロントローン国営農場として設立した。ウマ800余頭、ラクダ60余頭、ウシ100余頭、ヒツジ1000余頭を移住させることで牧畜を開始するきっかけとなり、1938年の秋に国営農場の中心地を現在の郡中心地にして活動を始めた。
1959年6月15日、モンゴル人民共和国の人民大会議の決定によりバロントローン郡をハンホヒー山の北側に設立した。国営農場が設立された1943-1959年のあいだは、行政区域としては現在のツァガーンハイルハン郡に属し、トローン郡と命名されていた。
- 3.
4. オブス県バロントローン川のほとり。
5. 1959年に郡が国営農場となり、長としてO. Ulambayarlakhが働いた。この国営農場から労働英雄のD. Batsuuri, Ts. Sanduijav, D. Tseren, S. Erdeneeらが出て、N. Mendbayar, N. Tsedev, B. Koliya, B. Dojoo, N. Lkhamüren, D. Chuluunらの30人、15部局部署が、国家級収穫チャンピオンの称号など褒章された。
6. 国営農場の活動が盛んなころには、年間5,000-7,000頭のヒツジを人工授精し、自由交尾をやめた。1990年には119,900,000トゥグルグの資産、トラクター132,コンバイン96, テクニク1,239, 自動車51, 農地22,800ha, 30,000余haに穀物, 飼料作物, ジャガイモ, 野菜を植え, オラングム穀類工場に原料を提供し, 年に17,000,000-20,000,000トゥグルグの生産量をあげた。1990年から東西トローンの2つの国営農場が, 6つの民間企業, 7組合に分解した。当郡の郡民が自主的に産業化をおこなってきた歴史があり, 穀物栽培に適した豊かな地域である。2006

年に1,570haに作付したうち、260余haに穀物、20haにジャガイモ、10haに野菜、1285haに飼料をつくった。農業を4つの事務所、5つの機関、710世帯で活躍させていた。近年、穀物、ジャガイモ、野菜の生産が減少したものの、灌漑可能な時には耕作した。

7. 耕作と牧畜から始めた。1940-1950年代からこの国営農場は経営を強化した。1945年から目的を特化させて、バヤド系ヒツジを繁殖させることとなった。1929年にウラーンサン集団、1937年にウマスターション、1941年にモンゴル人民革命党委員会、1942年に手細工、1943年に国営農場、1946年から病院、薬局、1947年に小学校、1952年に幼稚園、郵便局、1953年に家畜病院、1955年に交番、1956年に気象ステーション、1957年に10年制の小中学校、保育園、ディーセル発電所、ガソリンスタンド、1961年に文化センター、1982年にスーパーマーケット、1983年に混合飼料の工場、電話、白黒テレビステーション、1986年にトラクター75台の修理整備、1990年に2,000haの灌漑システム、800万立方メートル人工湖、ゾーントローン国営農場、1995年に交番、1997年に100kw水力発電、空港（初めての民間の空港）、1998年に空港、衛星システム、1998年に国境警備局、2000年に国境警備隊、2002年にジャンライサグ大仏、空港設備、衛星システム機関がそれぞれ設立された。
8. Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更（1991-1997）』
A. Nyamaa 1999 『オブス県事典』

8) テス飼料農場（※同名 no.6 要注意）

1. サブハン県テス郡。
2. 1969年設立。
3. 1992年民営化。
4. テス川沿いズル山。穀物や飼料栽培に適したテス川の南河畔にあった旧MAAMC（牧畜機械センター）を継承利用。
5. 牧畜協同組合長には、D. Renchin 1956-1957（「マンダハ（＝発展）」牧畜協同組合）、D. Balgansüren 1956-1957（「ジャルガラント・アミダラル（＝幸福な生活）」牧畜協同組合）、I. Damdinbazar 1956-1959（「デルゲレヘ（＝展開）」牧畜協同組合）、D. Günchin 1958-1959（「ジャルガラント・アミダラル」牧畜協同組合）、H. Dagiinaa 1959-1964、D. Pürevsüren 1964-1965、S. Zunrii 1965-1968、Ts. Getsenpiljee 1968-1989、D. Dagvadorj 1989-1991、J. Münkbaatar 1991年にそれぞれ任命されていた。
新しく設立された飼料農場長にはA. Balchinが任命された。また、Altangereliin

Begzsüren は、テス飼料農場と「デルゲル・アミドラル (=展開生活)」牧畜協同組合の遊牧民で、1967年に132頭の牝ウシから132頭の子ウシを育て、「モンゴル人民共和国のチャンピオン牧民」として表彰された。

6. 1963年に設立されたMAAMCに基づいて耕作を始め、年間4,000余tの栽培飼料の収穫、3,000余tの自然牧草の刈り取りをし、300余tの混合飼料を作り、牧畜協同組合の家畜の飼料を自らの蓄積にもとづいて収穫し、家畜はもっぱらヒツジにすることで273,100頭まで増加させ、補助施設で豚70余頭を飼養していた。この牧畜協同組合の牧畜部門に800人、補助施設に50人、農場に40余人が働いていた。1974年にテス郡のデルゲレヘネグデルを閉鎖し、バヤンオール郡のジャラガラントネグデルに合併させ、“デルゲレヘ・アミダラル”と名付けてバヤンオール郡に付属した。

関係会議の1975年7月18日の第336議決により、テス飼料農場にウマ100頭、ヒツジ4,591頭、ヤギ2,409頭で総計7,100頭をバヤンテス(バヤンオール)郡の「デルゲル・アミドラル」牧畜協同組合から移籍させた。作っていた時代には、年間4,000t近くの栽培飼料の収穫、3,000t近くの自然牧草の刈り取り、300余tの混合飼料の製造を果たしていた。

1990年初期のころには車2台、トラック10台、キャタピラとタイヤのトラクターやコンバイン20台、200余haを自動散水できる灌漑システム、20tの種倉庫、30tの冷凍庫、20床ベッドの宿泊施設、5人同時に入れるお湯シャワー、文化センター、職人、大工、麵棒、ハム、小麦粉工場、仕立部などのある大きな牧畜協同組合になった。また、8年制の学校、医科のいる部局、幼稚園、児童館、家畜病院、スーパーマーケット、石炭ストーブ、630kwの発電所、2,000tの飼料倉庫、2,000羽の養鶏場、100tの野菜倉庫などの設備を整備した。さらに、耕作以外に家畜を繁殖させる「アルガラント」ブリガードを設立し、10,001頭の家畜で活動を開始した。

7. そもそもソ連の援助でテス飼料農場を設立し、多くの住民を居住させ、学校、病院、宿舎等を建設して開始した。1974年にテス郡(ソム)をテス地区(ホロー)に変更した。

しかし、2年後の1976年にモンゴル人民共和国人民大会議の第138命でふたたび郡に戻した。その当時、テス地区には600戸約3,000人、家畜13,000頭が属していた。森林草原地帯とまったく異なる気候のこの地域でも家畜を繁殖させ、国家級の競争で何度も優勝した。たとえば、1986年に事業で優秀し、中央4機関の旗、賞金を受賞した。また、バター生産、飼料栽培、経理部門で国家級の競争で何度も優勝した。

8. D. Bayarsaikhan 2007「ザブハン故郷で生まれた農業英雄たち」『サブハン研究』

9) ゴーリンホロー飼料農場

1. ゴビアルタイ県デルゲル郡。
2. 1962年に設立。
3. モンゴル国大会議の1990年5月6日の第36議決により、飼料農場を閉鎖し、ゴーリンホロー地区はデルゲル郡に統合された。
4. デルゲル山の南麓。
5. Ts. Lookhuuz が初めて組織し働いていた。
6. ゴーリン平野に6,000haの土地を開拓し、灌漑設備を整えて、1965年には314haに穀物、野菜、家畜飼料を栽培した。さらに、苗木の床をつくり、ゴビアルタイ県内に、植林用の苗木や植物の種子を供給した。
7. ゴビアルタイ県に1962年灌漑局を設立した。以後、近代的設備により灌漑されてきた。閣僚会議の1974年5月7日の議決により、ゴビアルタイとバヤンホンゴルの県境にあるオトル用放牧地を設定し、ゴーリン飼料農場に管轄させた。土壌風食を防ぐために防風林をつくるなどの仕事をしていた。
8. Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更 (1991-1997)』
B. Bunchin, Ch. Songino 1986 『ゴビアルタイ県史』

10) バイドラグ国营農場

1. バヤンホンゴル県ジャラガラント郡。
2. 1956年に設立。
3. 1991年に閉鎖。
4. 中心地は、バイドラグ川のほとり。
- 5.
6. 牧畜ソーリごとに、牝ヒツジ用の家畜囲い（600頭を取容でき、340,000トゥグルグするもの）を50個、去勢牡・不妊牝ヒツジ用の家畜囲いを24個、貯水タンク80個を設置し、井戸を機械掘削した。チャマルという在来種を改良して、1983年3月にバイドラグ種にした。1986年の報告によれば、バイドラグ種のヒツジは40,000余頭になり、剛毛のヒツジを育てている地域に供給した。
7. 1956年春ザブハン県アルダルハーン郡から、ヒツジの品種改良部門が移動してきて、バイドラグ川のほとりに集まり、国家的事業の基盤となった。
その後、1961年に、バイドラグ国营農場は、草刈、品種改良、種付けの拠点、と変遷した。
国から、剛毛の「チャマル」ヒツジを育成する目的で1953年に国营農場が設立さ

れた。当時、70,000,000トゥグルグを投資した。10年制学校、幼稚園、乳児園があり、年間25トラクターを修理できる修理工場、400kwの発電所、60戸の住宅、医師のいる部局があった。家畜第3部の中心には、文化施設「オランボラン（=赤コーナー）」管理棟、発電所、浴場、電化された家畜用の病院、飼料所（ツェグ）、洗い場などが建設された。

8. D. Regsüren 1990『モンゴル人民共和国バヤンホンゴル県史』

11) トゥブシルーレフ国営農場

1. アルハンガイ県トゥブシルーレフ郡。
2. 1923年に人民政府の議決により国土の新たな行政区域制で郡の古い名称を変更し、ツェツェレレグ・マンダル・オール県を設立した。サイン・ノヨン・ハン盟の中心地を、現在のツェンヘル県のトゥルーヘンテイに属していたツェツェレレグ川の右岸のマンダル・トルゴイ周辺に移したので、ツェツェレレグ・マンダル県という名称の起源となった。1943年4月にトゥブシルーレフ郡の機械による草刈ステーションを国営農場にした。このときから、国営農場には農場長をおくようになった。ウシの新しい品種を発見するためにアルハンガイ県のトゥブシルーレフの国営農場をウシの繁殖牧場に変える等の事業を实践する計画を立てていた。
3. 1990年に閉鎖され、トゥブシルーレフ郡の国営農場は、いくつかの株式会社になった。「ハツィーン・ツォールハイ」社長 N. Narantuya, 「バガハンガイ」社長 B. Javkhlan, 「ジンス」社長 G. Tserenbat, 「アルタン・サラール」社長 B. Nyamsürenである。
4. トゥブシルーレフ。
5. 1960年にこの国営農場の技術者 Tovaan がアルハンガイ県から最初のモンゴル人民共和国労働英雄になった。
6. アルハンガイの総耕地面積は1,100ha、機械化は61.8%。1943-47年に機械で草を刈り、ウマステーションの数は4倍になり、刈った草は2倍になり、家畜の数は19倍になった。スイチョフ種のウシは、出生時39-42kg、6ヶ月で171kg、12ヶ月で314kgに成長するようになった。

国中に農場を活性化させ、小麦粉、肥料を国内で生産する目的で政治局の第40議決で設立した初期の5つの農場の1つがトゥブシルーレフだった。トゥブシルーレフ農場は首都ウランバートルから464km、ツェツェレレグ市から45km離れており、標高1,900m、森林地帯の美しい地域である。中心地はタワンボラグ。ホトント、バトツェンゲル、ツェンヘル、オギーノール郡と境を接している。郡土は1,200km²、つまり122,283ha、この14パーセントを水と森林が占める。864世帯の

3,410人住んでいる。活動が盛んなころには18,000haの作業用地, 2,800haの草刈場, 牧地の89.8haで活動をおこない, 穀物用2, 草刈用1, 牧畜用3つのブリガードを設立し, 活動をしていた。主たる産業として牧畜と農耕の両方を実施していた。2008年の調査によれば, 総家畜数は108,900頭, うちウマ9,778頭, ウシ6,186頭, ヒツジ47,973頭, ヤギ44,963頭だった。農耕のために郡に120台のトラクター修理工場, 20台のトラクター修理部局2つ, 機械化された穀物耕地, 1,100kwの発電所, 炭鉱3つ, 年間500t混合飼料を生産することのできる工場, 木工場, またキャタピラトラクター38台, タイヤトラクター85台, コンバイン40台, 自動車39台で活動していた。

7. トゥブシルレーフ郡の基礎となった草刈馬車ステーションとは, 草刈鎌20本, 同じく20本の熊手, 干草を束にまとめる機械を運び, アラ・ファイテンのファイテン湖の真北にあるダギニン・トルゴイの北の「ホンホ・タル」というところに, ゲル(フェルト製移動住居)とテント計10張で滞在していた。これは, ソ連からチョイバルサン元帥に贈られた10個の草刈馬車ステーションの1つだった。現地に1ヶ月滞在したのち, フフ寺の「ウラーン・チョロー」あるいは「エルデネ・トルゴイ」とよばれる付近に移動した。

1952年にウシの品種改良拠点となった。1953年に肉乳用としてスイチョフ種の牝1歳子ウシ20頭, 種牡ウシ29頭を連れてきて, 117頭の純血スイチョフ種のウシがいた。

1960年に9,904haを開拓し, 2,497haに作付して, 分割し, 1haごとに2,180kgの種子を収穫した。そのうち小麦はhaあたり2,500kgである。当時のモンゴルの平均よりも高い。

8. D. Regsüren, A. Baljinnyam 1973 『アルハンガイ県史』
Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更 (1991-1997)』
D. Mandalsüren 1969 『モンゴル人民共和国の国营農場』

12) タリヤーラン国营農場

1. ホブスグル県タリヤーラン郡。
2. 1943年閣僚会議の議決により国营農場になった。
3. 1992年に民営化し, 現在も操業中。
- 4.
5. 1970年にJ. Sodovら多くの優秀者を輩出した。
6. 郡土は3,341km², この1,582km²は放牧地, 167km²は農地(フブスグル県の総農地の74%)になる。

7. タリャーラン郡は、フブスグル県の農地資源のほとんどを満たすセレンゲ河の北方周辺にある。
8. Ts. Sodonomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更 (1991-1997)』
M. Nyamaa 2001 『フブスグル県事典』

13) マクサルジャヴ国営農場

1. ボルガン県ホタグオンドル郡。
2. 1977年9月に設立。
3. 1992年閉鎖。
4. ホタグオンドル郡出身で、モンゴル国の独立に貢献した防衛大臣マクサルジャヴの名前にちなんで命名された。
- 5.
6. 当国営農場は1990年に21,600haの耕地があり、年間平均17,150t収穫し、10,000tを国に供給していた。毎年、国家基金に3,000tの収穫を提供していた大きな農場である。
7. 穀物栽培目的で活動していた。10ほどの寺院があった。ヨモギ類、コケモモ、カラマツ、シラカバ、ヒマラヤスギ、コケ類、低木、密生した小木、モミの木などがある豊かな地域である。
8. Ts. Sodonomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更 (1991-1997)』

14) ハラホリン国営農場

1. ウブルハンガイ県ハラホリン郡。
2. 1956年4月27日モンゴル人民共和国閣僚会議の第197議決により設立。
3. 1990年閉鎖。
4. モンゴルの古都カラコルムにちなんで命名された。
5. 総合技術者モンゴル人民共和国の労働英雄、勲章技術者 Ts. Shatar が働いていた。郡長兼国営農場長として大人民会議議員の L. Gombosüren, S. Pürvee, Z. Tsoodol, 副長 Ochir らが任命されていた。
優秀遊牧民 D. Dorj
6. この郡・国営農場の総面積は233,000haであり、そのうち10%を穀物栽培用、83.4%を草刈場、3.6%を森林が占める。1970年から始まり、12,000,000-14,000,000トウグルグの生産高があり、3,000,000-4,500,000トウグルグの利益があった。
7. 耕作地として活動している。

1980年3月14日のモンゴル人民革命党政治局の第100議決により、ハラホリン国营農場におけるすぐれた経験を産業部門で浸透させることが決定された。すなわち、その決定では、北極星勲章を受章したハラホリン国营農場のメンバーのほかに、労働英雄4名、光栄賞4名、国家級チャンピオン26名がいた。ハラホリン国营農場は経営部局を設立し、そこで生産経費や、初期の登録情報の看板をつくり、基礎登録の進展を表した看板も設置した。また、計画、経済促進の新しいシステムを導入した成果について経済学習に利用した。専門的な人材を恒常的に育成し、彼らの知識、教育、働く方式を進展させるために徹底的に注意を払ったため、専門家がさらに経験を積み、責任感を強化することができた。専門家は5年計画で働かせ、党部局、委員会、郡の会議で仕事の報告をおこない、定期的に評価した。毎年、春の作付、秋の収穫の前に若い技術者のトラクター、コンバインを経験者に確認させ、相談をさせていた。農場の具体的な目標を人びとに宣伝、実践することで、仕事の関連を改善させる、グループの意志力を展開させるために、収穫オープンパーティー、搾乳者女性たちの労働、文化小会議、牧民会議などの全体的な行事を実施していた。

8. Ts. Sodonmdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更（1991-1997）』
D. Nürenzed, T. Renzen 1976 『北極星勲章を受けたハラホリン国营農場』

15) サンサル国营農場

1. ボルガン県ラシャーント郡。
2. 1985年にボルガン県グルバンボラグ、ダシンチレン、中央県のエレデネサント郡等の境の土地を切り取って設立した。
3. 1992年閉鎖。
4. サンサル山の東南方に位置する。
- 5.
6. 2007年に家畜総数は82,405頭、うちラクダ33頭、ウマ5,238頭、ウシ2,590頭、ヒツジ39,936頭で、20haにジャガイモと野菜を栽培した。
7. モンゴル国の最初の宇宙飛行士 J. Gürragchaa を記念し、ソ連の援助で建設した。
8. J. Boldbaatar, Ts. Pürevsüren 2008 『ボルガン県小事典』

16) エルデネサント飼料農場

1. 中央県エルデネサント郡。
2. 1971年にソ連の援助で飼料農場を設立。

3. 1990年に民営化し、現在までに「ボヤント・トゥブ」, 「ホルゴハイルハン」などの企業となり、現在も操業中。
4. エルデネサント郡中心。
5. 草刈馬車ステーション長として X. Choi, P. Tsevegdoj, P. Buyanravjikh, G. Demberel, Sh. Nemekhbayar, 家畜部門長として B. Natsag, D. Chuluun, O. Dagva, D. Mishigdoj, R. Dondogjav, 飼料部門長として S. Damdinsüren, B. Byambajav, J. Sürenkhorloo らが任命されていた。
6. 穀物栽培部門 4, 草刈部門 1, 牧畜部門 1 の諸ブリガードがあった。15馬力のトラクター305台, コンバイン60余台, 荷物運搬用トラック40余台があり, 11,700t の混合飼料を製造する能力があった。2,400t 収容の穀物倉庫, 時間あたり720kw の発電所 DGA300, 2,000,000kl の暖房が可能なインルト 6 という機械, 浴場, パン工場, 食堂, 52戸の住居, 400人の学校, 25床ある幼稚園, 保育園, ブリガード管理事務所, 文化施設, 上水道, 下水道があった。
7. 600人が働き, 国内外で研修した技術者(メカニクチッド)が200人いた。スフバートル勲章 1 人, 労働荣誉赤旗勲章 2 人, 北極星勲章10人, 表彰26人, 第5次から第8次5ヵ年計画でノルマを超えた400人がそれぞれ表彰された。1975, 1977, 1983年には混合飼料の品質競争で上位にランキングされ, モンゴル人民共和国閣僚会議の評価による金賞を得て, 国家第一級と認定された。
8. A. Bat-Ochir, L. Enkhbaatar 2000 『中央県エルデネサント郡』

17) バヤンノール飼料農場

1. ボルガン県バヤンノール郡。
2. 1979年に設立。
3. 1990年代初頭民営化。
4. 1962年に閉鎖されたバヤンノール郡中心に設立された。
5. 1983-1992年に T. Tseveen が農場長に任命されていた。草刈の国家級チャンピオンを10人近く輩出した。
6. 1979年にソ連の資金援助により100%機械化した草刈場を 8 部局で開始した。毎年 100,000t の草を準備し, ゴビ地方に供給した。年間4,000,000-5,000,000トウグルグの生産があり, 毎年国家計画を超えて生産し, 集約的に発展していたが, 1990年代初頭に民営化された。人の健康を目的としてチャツアルガナ, ウフリーンヌドとよばれるベリー類, ベスレグアリムなどの果実や, ジャガイモ, 野菜を大いに栽培し, 小麦粉, 蒸しパン, 揚げ菓子などを製造していた。
7. バヤンノール飼料農場の設立と関係して1980年7月30日に人民大会議第22決定に

より、バヤンノール郡を建設し、中心地をウジートと命名した。

8. J. Boldbaatar, Tss. Pürevsüren 2008 『ボルガン県小事典』

18) インゲトルゴイ国营農場

1. ボルガン県セレンゲ郡。
2. 1943年に国营農場になった。
3. 1992年に民営化し、小農場に分割された。
4. インゲトルゴイ。
5. 総合農業技術者 B. Tseren が 1971年にモンゴル人民共和国荣誉農業技術者になった。獣医 Damdindorj, Sükhbaatar, 学者の R. Javzmaa らの指導により、モンゴル在来種のウシをカザフの白頭品種とかけ合わせて肉用のセレンゲ種をつくった。ヒツジ牧民の S. Gombodorj が経験から 3 年連続 160-170 頭の種牡だけの群れを放牧し、98-100% を維持し、すべて中から上の肥えた状態にさせた。4 年目の中ごろには、春に 60-70kg, 秋に 75-80kg になった。
6. 往時の穀類栽培の発展は 1943 年春の成績からわかる。1,502ha のうち、技術的に 25.9% が耕された。最初の 5 年計画で、国营農場はヒツジから羊毛 1.4kg, 1 ha あたり 1180kg の収穫を得て、当時の好例になっていた。
7. 1937年にソ連の援助により草刈ステーションを建設した。このステーションのちにモンゴル・ソ連友好記念インゲトルゴイ国营農場として発展した。1955年 2月にモンゴル人民革命党中央委員会、閣僚会議の合同会議により、インゲトルゴイ国营農場は穀物栽培拠点と定められた。
8. Ts. Sodonmdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更 (1991-1997)』
J. Boldbaatar, Tss. Pürevsüren 2008 『ボルガン県小事典』

19) オラントトルゴイ国营農場

1. オルホンオール県ジャルガラント郡。
2. モンゴル人民共和国閣僚会議の 1976 年の第 249 議決により、エルデネト市の住民に、ジャガイモや野菜、乳を供給するために国营農場を建設し、農場長 R. Nyamdorj が任命された。
3. 1992年に民営化され、オルホンオール県が設立させる時に当県の 1 つの郡となった。
- 4.
5. 当初、穀物栽培用には第 4 分隊があたり、54 人がいた。詳細は以下のとおり。ト

ラクター運転手28, 牧民4, プリガード長1, 班長1, 経理1, 自動車運転手1, 脱穀その他18人。ヒツジ1,558頭, ウシ73頭, ウマ11頭。最初の農場長はNyamdorj, 総経理はDondovで, 総合農業技術者Baasanjav, 総合エンジニアAvirmed, 経営Mönkhjargalらが働いた。

6. オラントルゴイ分隊を国営農場にする際, 4,933,617トゥグルグの資本があったが, 酪農目的にした。

1970年に400牝ウシと, 穀類および野菜で合計7,050haだった。

1977年, 国営農場になった後では, 880,000kgの小麦の種, 400,000kgのじゃがいもの元, 70,000kgの燕麥の種が必要であり, 600,000kgの小麦の種は用意できたが, 他は用意できなかった。

1978年から営業を開始し, ラトビア, リトアニア, エストニアから良い品種のウシを706頭1978年10月ソ連のナウシク駅まで運んできた。その後, 1200tの乳を産出する酪農場を開業し, エルデネト市に牛乳を供給した。

7. 1976年, ボルガン県セレンゲ郡インゲトルゴイ国営農場の, オラントルゴイ第4分隊を独立させて国営農場とした。1976-78年のあいだはオラントルゴイ国営農場の準備期間であり, 1978年1月の人民大会議代表の第15決定によりエルデネト市のジャルガラント地区として設立した。当時, 501戸, 2,200人, 1,800頭, 59,600haの行政区だった。

1980年10月24日にモンゴル・ソ連政府コミッションが, この国営農場を完全にモンゴルに与えるという式典をおこない, 国営農場長のSh. Orosooが鍵を受け取った。国営農場を最初に設立するときからソ連の技術顧問長A. P. Koblik, 動物学顧問I. F. Ilichenko, J. I. Ananin, A. F. Ivaninko, エンジニア顧問A. P. Jeltov, I. V. Volodiya, 獣医顧問I. V. Oliega, 搾乳技術顧問J. I. Kharlamovら大勢の専門家が協力した。

8. N. Lkhagvadulam, Ts. Badamsed 2008 『ジャルガラント30周年』

20) ボルガルタイ国営農場

1. セレンゲ県パローンブレン郡。
2. セレンゲ県が1931年に設立される際, ボグドハーン盟パローンブレン・ハン・オール旗から, モンゴル人民共和国小会議委員会の1931年2月7日の第5議決により, 農場に移管された。モンゴル人民共和国閣僚会議の1937年12月15日の第33議決により, ボルガン県をセレンゲ県のいくつかの郡と統合して設立する際, パローンブレン郡はボルガン県に属することになった。モンゴル人民共和国閣僚会議の1941年12月11日の第81議決により, 1942年2月にセレンゲ県に戻したが, 1956

年にセレンゲ県を閉鎖する際に再びボルガン県に属させた。1960年にセレンゲ県を再び設立した際に、セレンゲ県に戻った。バローンブレン郡に1954年「ウルヌルト」牧畜協同組合が設立された。モンゴル人民共和国閣僚会議の1976年10月19日の第357議決により、セレンゲ県のバローンブレン郡の「ウルヌルト」牧畜協同組合は、ツァガートルゴイ国営農場のボルガルタイ分隊と統合され、穀物と細毛ヒツジを目的とするボルガルタイ国営農場が設立された。これ以降、当郡は国営農場となった。

3. 1992年に閉鎖。
4. ブレンハン山を水源として65km流れてオルホン川に流れるボルガルタイ川の沿岸。
5. 設立時に、西方諸県から自由意志で移民を募った。彼らをバローンブレンのホトンたちと呼ぶ。最初の郡長は Ts. Luuzandorj, Shaamii と言われる Luvsandash, T. Sambuu, G. Sanjaajav, T. Javaa, Jantsandorj, R. Baldan-Osor, Ts. Gombosüren, N. Dorj, Sh. Lkhamsüren, Ya. Badarch, Natsagdorj, T. Dorjsüren, B. Nyamsündev, P. Ayush, Ch. Vandansüren, Ts. Shagdarpurev, D. Badarch (1992-1996), M. Nordog (1996-1998), D. Badarch (1998-2000), N. Davaadamdin (2000-2004), J. Narantsetseg (2004-2008), J. Shirchmaa (2008年以降)
最初の労働英雄である L. Dandar はオブス県21戸103人を動員した。農場長として Devsinshovgoo, Nyamsündev, Ayush, Shagdarpurev, D. Badarch らが働いた。この国営農場から、国家級チャンピオン遊牧民 D. Luvsandorj, D. Tuvaandash, J. Uriyankhai, 国家級収穫チャンピオン M. Chuluunbaatar, J. Adiyasüren, B. Bold, B. Togoobor, J. Algaa, O. Janchiv, L. Urtnasan, L. Myagmar, Darambazar, O. Byambadag らを輩出した。
6. バローンブレン郡は県から240km離れており、2010年の調査で郡土2814.5km²、バグは3つ、758世帯の2,850人、家畜数1,271,000頭、農地21,700haだった。
7. 乳用のホルスタイン種の導入や、灌漑穀物栽培も始めていた。
8. O. Khishigsüren 2003 『セレンゲ故郷 (事典)』

21) オルホントール国営農場

1. セレンゲ県オルホントール郡、中心地はバヤンツォグト。
2. 1924年にボグドハーン盟のバローンブレン・ハン・オール旗のデーデ・オルホン郡という名前で設立された。1931年から当郡はバイツ・イヴェールト郡と統合しオルホントール郡になった。モンゴル人民共和国閣僚会議の1937年12月15日の第33議決でセレンゲ県オルホントール郡になった。1938年にボルガン県を設立する

際にセレンゲ県からボルガン県に移された。モンゴル人民共和国小会議の1941年12月11日の第81議決でボルガン県からセレンゲ県に戻された。1956年にオルホントール郡の「フグジル (=発展)」牧畜協同組合が設立された。1956年にセレンゲ県が閉鎖された時、中央県に属していたが1959年にセレンゲ県が設立されると中央県からセレンゲ県に戻された。1959-1960年にバグ、ブリガード、郡、牧畜協同組合の組織に変更をおこなった。

1972年11月14日第357議決により、この地を国営農場にした。オルホントール農場が設立される際にオルホントールの「フグジル」牧畜協同組合を統合させ、郡・牧畜協同組合を郡・農場にした。

3. 1992年に閉鎖。
4. オルホントールとトールの両河川周辺の牧地に設立した。
5. 郡長はS. Gombodorj, Ochir, D. Yadam, Badarch, K. Tleykhan, B. Balgan, M. Jamsran, B. Lkhagvasüren, R. Pürevdorj (1992-1996), D. Bayarsaihan, Gombo (1996-2000), S. Jamsran (2000-2004), P. Chuluuntsetseg (2004-2008), S. Erdenebayar (2008年以降)である。
ウシのセレンゲ品種を確立した牧畜専門家L. Damdindorj, O. Sükhbaatarらが国家賞を受賞した。1981年に労働英雄ヒツジ遊牧民S. Gonchigbal, 榮譽経済学者U. Dashdendev, 榮譽技術者N. Tseeren, 榮譽技術者H. Junsbek, 榮譽技術者U. Dorj, 国家褒賞者である牧畜専門家L. Damdindorj, U. Sükhbaatar等多くの有名人が輩出した。
6. 国営農場の最後の20年間に合計267,000tの作付用の小麦の種を提供した。県中央から200km離れている。オルホントール郡2010年の調査で郡土は2,940.8km², 957世帯の3,600人, 耕地は23,100ha, 家畜数は157,300頭だった。
7. 肉用種を目的としていた。当該国営農場は施設整備の優れた屠畜場を有していた。オルホントール郡はセレンゲ県の一番遠い郡で、農業、牧畜業を営んできた。農業地域の特徴に合わせ、まったく新しい技術を導入し、長年の赤字を黒字にするまで成長させ、成果を出した地域である。ウシのセレンゲ品種を確立し、セレンゲ県に他の県で繁殖してないラクダを飼育し、増加させる目標で大きな企画を実施し、成功した。農業の赤字を消し、成功したので、農業技術者Nyangariin Tseerenに榮譽農業技術者、セレンゲ品種を確立したことで畜産学顧問Damdindorj, Sükhbaatarらが国家褒賞を受賞した。
8. Ts. Sodonmdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更 (1991-1997)』

22) ゼルテル国营農場

1. セレンゲ県トゥシグ郡。中心地はトゥシグ。
2. モンゴル人民共和国小会議の1931年2月7日の第5議決により、ボグドハーン盟のズーンブレン・ハン・オール旗から設立された。1933年に146世帯の500人、9,500頭の家畜があった。1936年にツァガーンノール郡と統合し、トゥシグ・ツァガーンノール郡になった。トゥシグ郡はトゥシート・ハン盟のエレデネ・ワンギーン旗から1912年にツァハリーン・スムヤ貝子旗に与えられた地域である。1959年にアタルの最初のゼルテル国营農場が設立された。
1977年3月16日に人民大会議第64決定により、トゥシグ郡と命名された。
3. 1992年に民営化。
4. ゼルテル川の名にちなんで命名された。
5. 郡長は Luvsannavaan, Lkhagvaaregzen, D. Sükhbat, H. Maamdai, L. Batjargal, D. Erdenebileg, Sh. Bayasgalan, G. Badarch, O. Buyanaa, L. Amarsaikhan。
6. トゥシグ郡は県中央から135km 離れている。2010年の調査によれば、郡土は2,492平方km, バグが2つあり、人口は460世帯1,500人, 耕地13,600ha, 家畜数35,300頭であった。
7. ゼルテル国营農場は1959年にモンゴル最初の開拓運動（以下、アタルと統一する）のときに建設された4つの新しい国营農場の1つである。この国营農場は、他の3つに比べて高地にあるという点で特徴的である。トゥシグ郡はヒツジのウーツァン・スールト品種, ウマのドン品種, ウシのハリマク品種を繁殖させている。この地域で映画「フフーの結婚」が撮影された。
8. Ts. Sodonmdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更 (1991-1997)』

23) ナイラムダル国营農場

1. セレンゲ県ツァガーンノール郡。中心地はツァガーンノール。
2. モンゴル人民共和国小会議の1931年2月7日の第5議決により、ボグドハーン盟ズーンブレン・ハン・オール旗から設立された。1933年に636世帯2,200人, 家畜数は44,900頭だった。1936年に閉鎖され、トゥシグ郡に統合され、トゥシグ・ツァガーンノール郡になった。1956年にセレンゲ県を閉鎖する際、ボルガン県に移管された。1958年にスフバートル郡が設立される際、再びセレンゲ県に属した。1976年11月1日からゼルテル国营農場のツァガーンノールに作付や細毛種のヒツジを繁殖させる目的で、「ナイラムダル (=友好)」という名称の国营農場を設立した。

3. 1992年に民営化された。
4. 郡長はCh. Ayur, D. Yadam, K. Tleukhan, Ts. Lkhagvasüren, K. Tleuhan (1992-1996), Ch. Jargalsaikhan (1996年以降)。
5. J. Sambuu 記念モンゴル牧畜研究所の顧問であり農業研究者B. Ayushは、セレンゲ県ナイラムダル国営農場で、羊毛の生産を増やす目的で20年に近く研究した結果、細毛のハンガイ種ヒツジをつくることに成功した。
6. ツァガンノール郡は1985年に52,426t, 1988年に17,500tの穀物を収穫し、1ha 灌水の無い耕地から27.8ツェントネルを収穫し、新記録を達成したが、その記録は今も敗られてない。ナイラムダル国営農場の行政区であるツァガンノール郡には1994年に600世帯3,000人、家畜数46,000頭であった。当郡はハンガイ品種の細毛ヒツジ飼育した地域である。成長したハンガイ品種の牡ヒツジの体重は90kgで3.5kgの毛を産出していた。
2010年の調査によれば、ツァガンノール郡は1,100世帯4,000人、郡土は3,814.7平方km、バグ3つ、家畜数121,300頭、耕地52,100haである。
7. ゼルテル国営農場のツァガンノール分隊をソ連の援助によって穀物栽培と細毛ヒツジの目的で設立した。
8. Ts. Sodonmdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更 (1991-1997)』

24) ズーンブレン (コミンテルン) 国営農場

1. セレンゲ県ズーンブレン郡。郡中心地はジャラガラント。
2. 1930年にコミンテルンという名称の国営農場を設立した。1933年に党から、国営農場は役に立たないという見解が出され、閉鎖された。モンゴル人民共和国閣僚会議は1943年4月2日、第30/36議決により、ステーションを閉鎖して国営農場にすると決めた。モンゴル人民共和国人民大会議の1956年7月27日の第102決定により、セレンゲ県が閉鎖される際、中央県に移管された。モンゴル人民共和国人民大会議の1959年12月31日の第222決定により、セレンゲ県を再設した際、セレンゲ県ズーンブレン郡となった。
- 3.
4. ボーグマという場所を中心地とした。
5. 郡長は以下のとおり。Sanjaajav, P. Tsogtzanaa, H. Dashdondov, B. Tömörchödör, D. Lamjav, D. Chuluun, Ts. Shagdarpurev, L. Narangerel, M. Dorjsüren, B. Tömör-Ochir (1992-1996), Ts. Lkhagvajav, B. Dorjpurev (1996-2000), Ts. Batjargal (2000-2004), M. Dorjsüren (2004-2008), B. Batchuluun (2008年以降)。
6. 1961年にこの国営農場には、穀物栽培5ブリガード、とうもろこしや果樹が2サ

ラー（分枝隊）、136人の常勤労働者がいた。2,500haの耕地に対して、600tのボーツ（羊糞）と15tのサンガス（鳥糞）で施肥し、オルホンーメリノプシ63、リュテスツェニス62の小麦、ラニイ1のキャベツ、ベススノスキイ玉葱、フェルリンヘンゲイジャガイモなどを収穫した。1933年に702世帯の2,600人、家畜数60,200頭だった。郡土120,000ha、人口2,468人、家畜数63,900頭。農業、牧畜業を営んでいた。県中央から50km離れている。チャツアルガナの作付を発展させている。ズーンブレン郡は2010年の調査によれば、郡土1,204.9km²、バグ3つ、900世帯の2700人、16,200haの耕地、家畜数は57,700頭だった。

7. 当初はセレンゲという名称であったが、1945年にズーンブレンという名称になった。1967年にシャーマル郡と「ナイラムダル」牧畜協同組合を統合して、ズーンブレン国营農場に統合した。
8. Ö. Bavuu 2004 『ウバシメルゲドの子孫たちの簡略史典』
Ö. Bavuu 2001 『セレンゲ史略』

25) アルタンボラグ国营農場

1. セレンゲ県アルタンボラグ郡。郡中心地はアルタンボラグ。
2. もともと清朝の外モンゴルを所掌する理藩院に「ジュルガーニー・ザンギ」という名称で1729年初頭に国境貿易問題をあつかい、商人を管理する管理局を設立して、キャフタ市がつくられた。1921-1931年になるとアルタンボラグ省が設立された。モンゴル人民共和国の小会議の1931年2月7日の第5議決により、県の中心地となった。1921年3月18日にモンゴル人民軍がアルタンボラグ市を解放したことが人民革命の勝利の礎となった。1931年の時点で、セレンゲ県の中心地がアルタンボラグ郡だった。1938年にボルガン県が設立された際、セレンゲ県の多くの郡が再編成され、アルタンボラグ郡は閉鎖されてシャーマル郡に統合された。1956年に、国营農場を設立して郡と一体化させた。ただし、1956-1959年のあいだは中央県に属し、スフバートル郡の管轄になっており、1960年から、独立の国营農場となった。
3. 1992年に民営化。
4. アルタンボラグ。
5. アルタンボラグ郡国营農場の長たちとして、Ölziitogtokh, Namjil, Gombodorj, Norovsambuu, N. Nyamjargal, 1960年にJigmeddorj, Ya, Namjaa, L. Chojamts, D. Lamzav, O. Jigjid, S. Tseveendorj, D. Enkhbat, J. Bayarmagnai, J. Byambaaらが働いていた。
国营農場で野菜を作っていたB. Tuyaが労働英雄になった

6. 中心地に、革命博物館、文化宮殿、10年制学校、60戸アパートが6棟、各種農業機械、トラクター80台の修理工場、400頭機械化酪農場、400人用学生寮、農業専門学校などがあった。これらは、技術協力の援助による。2010年の調査でアルタンボラグ郡は郡土2,100.3km²、バグ3つ、1,400世帯5,100人、家畜数34,300頭、耕地12,600haであった。
7. 1955年の青年同盟の呼びかけにより、人びとが集まった。アルタンボラグ郡の時代1919年には269世帯700人、家畜数1,700頭、郡土210,000ha、農耕と牧畜を営んでいた。商業活動の自由地域、モンゴルとロシアの国境検問所、革命博物館、初めての国立小学校、銀行と裁判所の建物、人民党中央局、国民暫定政府の初めての事務所が置かれていた建物が当郡にある。1981年に宇宙飛行士となったJ. Gurrachaaは、革命の土台になったアルタンボラグ郡の土地から宇宙に土を持っていった。
8. Ts. Sodonmdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更（1991-1997）』

26) シャーマル飼料農場

1. セレンゲ県シャーマル郡。郡中心地デルゲルハーン。
2. モンゴル人民共和国国会議の1931年2月7日の第5議決により、ボグドハーン盟のズーンブレン・ハン・オール旗から設立された。1933年の調査によれば、656世帯2,400人、家畜数30,300頭だった。1956年にセレンゲ県が閉鎖され、中央県に統合された際、中央県スフバートル郡に統合された。1960年にセレンゲ県が再び設置された際、シャーマル郡となった。シャーマル郡の「ナイラムダル」牧畜協同組合は1956年に設立されており、1954年にはオルホン・シャーマルの果樹栽培実験ステーションとして最初は設立されていた。1968年にシャーマル飼料農場が設立された。モンゴル人民共和国の人民大会議の1972年4月12日の第75決定により、シャーマル地区（ホロー）をシャーマル郡と命名した。
3. 1991-1993年に多くの小さな経営体に別れていたのを1995年に再び統合し、Soyolのもとでオンドラクチという名まえの会社組織とし、穀物栽培と草刈を始めた。
4. オルホン・シャーマルの果樹ステーションは科学アカデミーの農業研究所によって設立され、多くの研究者が果樹栽培や蜂蜜の採集について研究していた。研究者名は以下。Toivgoos, Badraa, Shagdar 博士, B. Laagan 博士, Sambuu, Baast, Tserendondov, Jüggerら。
5. 郡長としては、Bat-Ochir, Tseveendorj, Dorjkhörloo, N. Norov, S. Dorjpalam, Ts. Süren-Ukhnaa, B. Sainjargal, B. Mandaa, O. Bavuu, B. Sainjargal (1992-1996), N. Tserenvanchig (1996-2000), J. Batsaihan (2000-2004), Ch. Sanjaajav (2004-2008), D. Byambasüren

(2008年以降)。

初代飼料農場長は Ts. Süren-Ukhnaa。1970年にシャーマル飼料農場に、栽培飼料を粉砕して「草の粉」をつくる部局を設けた。全労働者の86%は、青年同盟の呼びかけに応じて集まった人びとであった。1976年の人民大会議の決定により、この飼料農場は青年同盟記念という名称になった。

6. 1955年に10ha程度を整備し、20種ぐらいの果樹を栽培し始めた。1960年になると30ha60種ぐらいになり、りんごは4,370本、その他6000本があり、12tを収穫する。1965年に169,700haの土地、遊牧民520人、公共資産の家畜19,000頭、1,800,000トゥグルグの収入と2,000,000トゥグルグの資本があった。

シャーマルにある蜂蜜農場は1980年に20tを採集する独立経営体として発展した。シャーマル郡は2010年の調査によれば郡土671.9km²、バグ3つ、人口は1,100世帯3,968人、耕地3,600ha、家畜数21,200頭だった。

7. 1959年にソ連からミツバチを20巣もらって、発展させた。モンゴル養蜂業の基盤をなしたのはここシャーマルである。シャーマル郡はモンゴルで始めてリングを作り、県の空に90,000,000匹の蜂を飛ばし、歴史的な成功を画した郡である。1956年から果物や果物研究所が設立され、モンゴルで初めてリングをつくったばかりでなく、40種類の果物をつくった。モンゴルリングをつくった Erdenebaatar Shagdarには国家勲章が贈られた。シャーマル郡はまた、モンゴルの天然干草の国家基金の大部分を供給していた大きな飼料農場だった。当郡には「エージ・モド」「トジーン・ナラス」「ハイラースタイン・ドゥガン」等の歴史的な場所があるほか、アジアとヨーロッパを結ぶ道路や鉄道が通過している。シャーマルの農業技術専門学校は、学校コンビナート（複合学校）という名で活動を始め、第1次アタルや第2次アタルを実施して成功に導いた専門家たちを卒業させたことで知られている。

8. 科学アカデミー 1963『シャーマルにある果樹栽培実験場 論集1』
科学アカデミー 1977『シャーマルにある果樹栽培実験場 論集4』
O. Khishigsüren 2003『セレンゲ故郷（事典）』

27) フデル飼料農場

1. セレンゲ県フデル郡。郡中心地ボラグタイ。
2. モンゴル政府の1924年10月18日の第42議決により、ボグドハーン盟ガルタイン・ブリヤード旗という新しい行政区画が設立され、フデル、シヨルゴールジ川沿いに中心地をおいたのがフデル郡の基礎となった。1972年4月14日に設立された。モンゴル人民共和国人民大会議の1973年10月31日の第279決定により、フデル郡の

境を確定した。

3. 1992年に民営化された。
4. ノロブバンザドに中心地をおく。
5. 郡長として, N. Tserendash, N. Enebish, N. Dulamsüren, Ch. Yadamjyav, G. Hashbaatar, G. Demberel, G. Hashbaatar, G. Hashbaatar (1992-2003), T. Baasandorj (2003-2004), B. Mökhtör (2004-2010), Ch. Baatarjav (2010年以降) らが任命されていた。初代農場長はN. Tserendashで、初代総合エンジニアはKh. Danzandorjで、のちに農牧業省で働いた。
6. 国費をもちいて、MTZ80や83のトラクターを108台、草刈機、ウシ1,500頭、モンゴルヒツジ4,000頭、ウマ200頭、第3分隊には穀物栽培用機械類、総額16,500,000トゥグルグの資本で設立された。フデル郡は2010年度の調査によれば、郡土は2,838.7km²、バグ2つ、560世帯2,100人、耕地9,400ha、家畜2,500頭である。
7. 1971年6月25日の第202議決により、ヨロー国営農場の第3分隊を発展させ、年間20,000tの天然牧草の草刈場を準備し、国の需要を満たすという目標でフデル飼料農場が設立された。フデル郡を単独化するうえでの基本的な条件は、年間20,000-30,000tの天然干草をつくり、国の恒常的な需要に応じて、穀物、牧畜、工場を営むことだった。現在、当郡に小麦、ジャガイモ、野菜を作付し、観光を発展させる、自然資源を利用する方法で郡民は活動し、フデル・ドゥングイン地域の「グゼールゼゲニー・ハンド」、 「タガル・ソングノ」、 「チャグ・ムーグニー・ハンド」等の食品がブランドになった。フデル郡はモンゴルの国境地域であるため、ソ連側の住民と関係を持ち1972年から「エヴ・モドニー・ナーダム (=友好の木のまつり)」を復活させて途切れることなく実施してきた。
8. Ts. Sodonomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更 (1991-1997)』

28) ヨロー国営農場

1. セレンゲ県ヨロー郡。郡中心地はタヴィン。
2. モンゴル人民共和国の小会議の1931年2月7日の第5議決により設立された。セレンゲ県が閉鎖された際、中央県スフバートル郡になっていた。1959年に国営農場が設立された。
3. 1992年に閉鎖された。モンゴル国大会議1994年5月6日の第36議決により、ヨロー地区(ホロー)を閉鎖し、セレンゲ県のヨロー郡に統合した。
4. ヨロー川のほとり、ポーラクチン山の麓。
5. 当該郡国営農場長をつとめていた人びとは以下のとおり。

1924-1930 B. Renchin

1930	A. Dorjparam
1930-1947	B. Chültem
1948-1952	S. Rentsen
1952-1954	Petrushka
1954-1956	Baldan-Osor
1956-1961	Zagdgochoo
1961-1962	Ts. Jambal
1962	T. Yümjav
1963-1984	N. Nyamjargar
1984-1990	B. Pürevjav
1992-1995	Ts. Enkhsaikhan
1995-1997	J. Püevdorj
1997-1999	Ts. Günchinsüren
1999-	S. Sharaa

1958年にトラクター運転手、コンバイン運転手のN. Byambatsogtが労働英雄として表彰された。G. Chadraabalの指導により肉乳細毛のヨロー種のヒツジがつくられた。当郡からは労働英雄としてN. Byambatsogt, G. Luvsanchimed, D. Battör, M. Altangerel, B. Dashzeveg, J. Chuluunbaatar, D. Dash, 国民的俳優L. Jamyanjav, 荣誉経済学者N. Nyamjargar, 荣誉機械技術者S. Ganbold, 荣誉労働者Ch. Changas, 荣誉灌溉技術者N. Doljinjav, 国家勲章を贈られたR. Javjmaa, Dulmaa農業科学博士, Ga. Tserendorj, J. Shagj, D. Batjargal, Ts. Toivgoo, 地理学者B. Gungaadash, 歌手のB. Puntsagらを輩出した。

- 1933年に596世帯2,100人, 家畜数23,500頭だった。1955-56年に国营農場の遊牧民Kolooが自分の担当するヒツジ群で, 冷涼でも子畜の飼育に成功した。486頭の牝ヒツジから491の子ヒツジを育て, 766kgのノルマに対して1,029kgの羊毛を納めた。群れ成長の計画を104%達成した。
1994年にヨロー川のほとりで820,000haの領域, 20,500頭の家畜, 24,000haの穀物作付, 30haの野菜栽培, 160,000,000トゥグルグの資産があった。1981, 82, 83年の収穫期には, 収穫量が全国第1位だった。ヨロー郡は2010年の調査によれば, 8,203.5km², バグ3つ, 1,800世帯6,400人, 耕地23ha, 家畜62,600頭だった。
- 穀物栽培と細毛ヒツジの飼育目的で農業を始めた。ヨロー国营農場は収穫計画を208.9%, 国に供給する米を208%達成し, 未曾有の成功を収めたのでモンゴル人民共和国人民大会議の1959年10月31日の第176決定により, 労働荣誉赤旗勲章を受章した。1950年半ばから農場が盛んになり, モンゴル国における穀物生産の発展にとってモデル地域となった。したがって, 第1次アタルが始まる前年から, N.

Byambatsogt が農業部門で初めての労働英雄賞を受賞し、近代史上の金字塔となった。ヨロー郡は細毛のヨロー種のヒツジの生産地として認証された地域である。ヨロー地域は1926年にヨロー川金鉱山、1946年にボロー金鉱山、1974年にトルゴイト金鉱山を採掘し始めた鉱産資源の豊富な地域でもある。ヨローの木工場を中心に、モンゴル人民共和国の1961年1月9日の第7決定により、ヨロー地区（ホロー）を設立した。その後、ボガントにある木工場の近くに、モンゴル人民共和国人民大会議の1971年3月2日の第55命によってつくられた地区を、人民大会議の1972年4月12日の第75決定により閉鎖し、ヨロー地区と統合し、中心地はボガントに設定した。

8. Ts. Sodonomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更（1991-1997）』

29) バヤンハラート国営農場

1. セレンゲ県ジャブハラント郡。中心地はバヤンハラート。
2. 1977年1月1日設立された。ヨロー国営農場の第2分隊を中心に、穀物栽培を目的としてバヤンハラート国営農場を設立した。モンゴル人民共和国人民大会議の1977年3月16日の第64決定により、セレンゲ県バヤンハラート国営農場はジャフラント郡と命名された。
3. 1992年に閉鎖された。
4. バヤンハラート山にちなんで命名された。
5. 郡長としては、D. Pürevsüren, Ts. Maandai, A. Namjildorj, Sh. Chojoo, D. Khenmedekhevkhüü, S. Nyamsüren, D. Khenmedekhevkhüü (1992-1996), P. Buyandalai (1996-2000), S. Nyamsüren (2000-2004), H. Tsermaa (2008年以降)。D. Pürevsüren が農場長だったとき、成果が著しく、人民大会議で副議長に選ばれた。
6. 118,900haの耕地があり、牧畜部門では高収益のある家畜を飼育している。ジャフラント国営農場は、現在、牧畜、穀物、ジャガイモ、野菜の栽培をおこなっている。ジャフラント郡は2010年度の調査によれば、1,189,700km²、バグ2つ、634世帯1,900人、耕地17,100ha、家畜81,700頭である。郡中心地はジャルガラントである。
- 7.
8. Ts. Sodonomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更（1991-1997）』

30) ノムゴン国営農場

1. セレンゲ県サイハン郡。郡中心地はノムゴン。

2. モンゴル人民共和国閣僚会議の1976年11月19日の第357議決により、オルホン国营農場のノムゴン分隊で穀物、細毛のヒツジを繁殖するノムゴン国营農場を設立した。モンゴル人民共和国人民大会議の1977年3月16日の第64決定により、ノムゴン国营農場のサイハン郡を設立し、中心地をノムゴンと命名した。
3. 1992年に民営化された。
4. 中心地はノムゴン。
5. 郡長として、N. Perenlei, Sh. Baldandorj, Tseden-Ish, Sürenjargal, S. Tseden-Ish, N. Bayarmönkh (1992-1996), Ts. Sampilnorov (1996-2000), O. Buyanaa (2000-2004), R. Shiilegjambal, B. Shirchinjav (2004-2008), S. Enkhtaivan (2008年以降)。初代郡長はN. Perenleiで1990年まで務めた。
6. サイハン郡は2010年の調査によれば、1,311.9km²、バグ3つ、2,300世帯の8,800人、耕地は25,600ha、家畜数は76,700頭であった。現在、郡中心地はフトゥルという。フトゥル市だけで7,200人が居住する。
7. 穀物栽培および細毛ヒツジの飼育を目的とした。1977年にノムゴン国营農場を所掌するサイハン郡を設立した。当郡から穀物栽培家 Sambuu が労働英雄賞を受賞した。
8. Ts. Sodonmdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更 (1991-1997)』

31) ツァガートルゴイ国营農場

1. セレンゲ県サント郡。郡中心地サンタ。
2. 1959年に設立。
3. 1992年に民営化された。
4. ツァガートルゴイというところに1944年に移動した。
5. 郡長として、Tsevegдорj, Nida, Dorjrentsen, Ts. Garmaa, L. Narangerel, G. Jalbaa, J. Norovsambuу, G. Urtnasan, L. Batdorj, D. Vandan, D. Ölziibadrah が任命された。初代農場長はBирааで、以来、農場長が郡長を兼任するようになり、32年間に15人交替した。最も長かったのは1968-1979年のTs. Garmaaである。最も短かったのは1963-64年のNyadaaである。多くの有名人を輩出した。たとえば、労働英雄のJ. Baasan, M. Erkhembayar, 国家級牧民チャンピオン Dүgerjav などである。
6. 1954年に1300haの穀物用灌漑農地をつくり、利用した。サンタ郡はカザフ族の白頭ウシ、オルホンヒツジ、ホブド県の赤毛のヤギを主として飼育していた。年間平均ジャガイモ3,000t、野菜900tを取穫していた。サンタ郡は、モンゴルの国营農場史において学術研究の1つの中心地であった。2010年度の調査によれば、1,387.0km²、バグ2つ、680世帯の2,200人、耕地7,000ha、家畜数62,500頭だった。

7. 1924年8月30日にボグドハーン盟のバローンブレン・ハン・オール旗を設立するバローンブレン・ハン・オーリン代表によって開催された1926年8月12-15日の大会議の第3議決で旗内に4つの郡の行政中心をどこに設置するか議論し、「タルハバヤン郡の中心地をバヤン山の南方に設立することを決定した」とある。これがサンタ郡の起源となった。セレンゲ県のホシャート郡地域にオルホン・ハラエの牧草、エンフタル谷の南方、ドノイ・ジン山の南麓に1928年に「エンフタリーン・サンギーン・ガザル（平和平原国営地）」との名称で設立された、農耕と牧畜を営む国営農場が1944年にバルーンブレン郡のツァガーントルゴイへ移動し、ツァガーントルゴイ国営農場が設立された。1954年からカザフ族の白頭ウシを飼育し始めた。1954年にイヴェン川をせき止め、ツァガーントルゴイに初めて灌漑システムを導入した。
- サンタ郡には農業、その他の専門学校が設立され、専門学校教育産業センターと拡大され活動をおこなっている。サンタ郡のモノストイ地域で映画「地球を照らす太陽」を撮影した。
8. Ö. Bavuu 2001 『セレンゲ史略』

32) エンフタル国営農場

1. セレンゲ県ホシャート郡。中心地はエンフタル。
2. 1930年の第6回大会議の議決により、家畜と耕作を管理する国営農場を設立した。1931-32年の極左派の失策により1933年に縮小され、わずか500haを慣習的に作付していた。1956-1959年のあいだは中央県が管轄した。1960年にセレンゲ県に移動され、閉鎖され、第1、第2、第3、第5、第6バグをダルハン郡に、第4バグをバローンブレン郡に移管した。モンゴル人民共和国閣僚会議の1986年の第329議決により、ホシャート郡が再び設立された。モンゴル人民共和国閣僚会議の1986年9月4日の第329議決により、ツァガーントルゴイ国営農場のエンフタル分隊を発展させ、エンフタル国営農場として新しく設立した。
3. 1992年に民営化された。
4. 郡の行政中心地は当時バジギロラーンの（南）麓に据えられた。
5. 新しく設立した国営農場長として、地元の人びとの意思に沿って、農業技師の国会議員だった Kh. Namsrajav がモンゴル人民革命党中央委員会の書記長らの助言により指名された。郡長は H. Namsrajav (1992-1996), G. Gombojav, N. Lkhagvajargal, N. Gantömör (1996-2000), B. Sühee (200-2004), O. Bat-Ochir, B. Battulga, B. Atartulga (2008年以降)。
6. 当初、150戸770人、6,012頭、21,500haの耕地、18,000,000トゥグルグの資本で、

小規模だった。ホシャート郡は2010年度の調査によれば、2,010.2km²、バグ2つ、479世帯1,700人、耕地21,800ha、家畜数76,900である。

7. 1931年モンゴル在来種の牝ヒツジ16,000頭のうち、4,000頭が出生し、1,200頭が妊娠せず、4,000匹の子ヒツジのうち3,721匹がハマー病により死亡し、270匹が残った。1931年にこの国营農場を人工授精のための最初の国家機関とした。カザフの白頭ウシとよばれる品種を飼育した。ホシャート郡ではオーストラリアのアランブル種のヒツジを飼育した。
8. Ö. Bavuu 2001 『セレンゲ史略』

33) オルホン国营農場

1. セレンゲ県オルホン郡。中心地はオルホン。
2. 1943年からジャルガラント国营農場のオルホンにあったヒツジ実験場を移管し、品種改良を科学的に継続するために独立させた。オルホン郡は1959年に設立された。
3. 1991年、オルホン種ヒツジは多数の小さなグループに分けられた。現在、オルホン、ノムゴン、ツァガートルゴイなどの郡で飼育されている。
4. セレンゲ県オルホン川沿い。
5. 郡長としてD. Yadam, G. Tsendjav, A. Amjaa, Jadambaa, S. Sodhüü, Sh. Durvunjin, A. Amjaa (1992-1996), Sh. Dörvönjin (1996-2000), N. Enebish (2000-2004), Yo. Battengel (2004-2008), G. Bulganchimeg (2008年以降)。1943年からモンゴル国立大学の動物学学部の教員T. Ayurzana, ソ連の学者G. R. Litovchinkoが共同してオルホン国营農場においてヒツジの品種に関する研究を開始し、家畜に関するモンゴルの学術研究の水準を高めた。モンゴル国立大学の、1947年の初代卒業生S. Ayush, 1951年の卒業生B. Ayushらが加わった。1957年に「オルホン国营農場に細毛ヒツジの飼育拠点を建設する方法」というテーマで学位を取得した。
6. オルホンヒツジの種牡は75-80kg、牝は58kgで、その羊毛は3.8-8kgである。オルホンヒツジは102kgで、その羊毛は7kg、長さ13センチである。ハナが広くて長くて、胸部が広く、羊毛は全身に均しく生えており、尻が腰より少々高く、体格のよいヒツジである。2010年度の調査によれば、1,306.3km²、バグ2つ、677世帯2,300人、耕地23,200ha、家畜数84,700頭である。
7. オルホン国营農場のヒツジ群を多目的化して、1960年から肉細毛用に変更した。オルホン種ヒツジを閣僚会議で認定し、関係者を表彰した。
B. Ayurzana, J. Raash, Sh. Dashtserenには国家褒賞、技術研究を実行したB. Ayushには北極星勲章、ヒツジ遊牧民 LovsanIshiにはスフバートル勲章を与えた。

学者 T. Ayurzana は1943-1961年にオルホン国営農場でモンゴル国初の肉と毛を使用する細毛のオルホン品種というヒツジをつくり、モンゴル人民共和国の発明リストに1961年1月10日に登録され、モンゴル国初の著作権1号に認定された。オルホン郡のバレンダライの農場で映画「マルタグダシグイ・ナマル（忘れがたき秋）」を撮影した。

8. Ts. Arvii 1978『オルホン品種ヒツジ』
- O. Khishigsüren 2003『セレンゲ故郷（事典）』

34) バローンハラー国営農場

1. セレンゲ県バヤンゴル郡。中心地バヤンゴル。
2. モンゴル人民共和国小会議の1931年2月7日の第5議決により、ボグドハーン盟ノヨンオール旗から中央県に移管され設立された。1933年にバグ7つ、757世帯2,500人、家畜数67,300頭だった。1938年にセレンゲ県に移管された。バヤンゴル郡に「マンダハ」牧畜協同組合が1939年に設立された。セレンゲ県が中央県に移管された1956年、県内のバヤンゴル郡も閉鎖され、第1、第2、第3、第4バグをズーンハラーに、第5バグをダルハン郡に移した。バローンハラー国営農場は1957年に設立された。1968年にバヤンゴル郡の「マンダハ」牧畜協同組合を停止し、バローンハラー国営農場と統合した。1972年にソ連の援助により、完全に営業が始まった。
3. 1992年に多くの小さな会社に民営化された。
4. バローンハラー川沿いにある。
5. 郡長として D. Sodnomjantsan, Gonchig, Chojjinnyam, Namchinjav, L. Badamsed, N. Tseeren, G. Khashbaatar, Ts. Garmaa, L. Batjargal, R. Nyamsündev, H. Davaahüü (1992-2004), M. Delgernyam, H. Davaahüü, B. Ekhbat (2008年以降)。国家級チャンピオンの穀物栽培家 Lkhagva, Dashbyamba ら20人を輩出した。
6. ここには、穀物栽培、草刈場、家畜飼育、道路建設、石油貯蔵タンク、鉄道駅がある。1965年に「マンダハ」牧畜協同組合は耕地1,917,000ha、委員695人、国有家畜32,900頭、2,600,000トゥグルグの収支、2,700,000トゥグルグの資本があった。バヤンゴル郡は2010年度の調査によれば、1,976.3km²、バグ3つ、1,600世帯の5,500人、耕地16,400ha、家畜数130,700頭である。県中心地から170km離れている。
7. セレンゲ県のバローンハラー国営農場には完全に機械化した酪農場がある。バヤンゴル郡はアラタウ種のウシを繁殖させた地域である。当郡から労働英雄穀物栽培家 Ch. Bayaraa, 労働英雄建築家 D. Jugder, 労働英雄選手 M. Volodya, 荣誉技

術者 Tömenbayar, 栄誉経済学者 L. Nyamsambuu, 栄誉サービス労働者 J. Badraa, 栄誉工業労働者 B. Nergui らを輩出した。

8. Ö. Bavuu 2001 『セレンゲ史略』

35) オクチャブリ国营農場

1. 中央県スンベル郡。
2. 1976年10月19日閣僚会議の議決により, ジャルガラント国营農場のハルエレグ分隊をもとに設立した。
3. 1992年に民営化。
4. ジャブハラントを中心地にした。
5. 初代農場長は B. Norjin。
6. 設立年に7,000haの穀物栽培うち5,000haに小麦を作付し, その他はほぼ家畜飼料で, ただし600haはジャガイモで, 6,448tのジャガイモを収穫した。
7. 設立時, トラクター20台, 機械5台, 14,000,000トゥグルグの資産で, 5,100頭の家畜, 10.8haの広場, 18労働者で始めた。翌年から穀物倉庫をもつようになり, 首都にジャガイモを供給し, さらにソ連へ輸出するようになった。
8. M. Erdenedalai, J. Sürenkhorloo 2009 『中央県の農業50年史』
Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更 (1991-1997)』

36) ズーンハラー国营農場

1. セレンゲ県マンダル郡。中心地ヘルヘ。
2. 1922年ハラー農場の名称で設立され, モンゴルの国营農場の最初の事例となった。1931-32年に極左派の失策により1933年に活動を縮小した。1933年に891世帯2,800人, バグ10, 家畜数56,300頭だった。マンダル郡の「ツェツェルレグ」牧畜協同組合は1956年に設立された。マンダル郡は1938年にセレンゲ県に移管された。モンゴル人民共和国国会議の1941年2月11日の第81議決により, 中央県に戻された。1943年に閉鎖され, バトスンベル, ウグタール・ツァイダム郡に統合された。1960年にセレンゲ県に戻ったのち, モンゴル人民共和国人民大会議の1961年1月9日の第7決定により, ズーンハラー市となり, 市役所が設立された。さらに, モンゴル人民共和国人民大会議の1968年1月13日の第9決定により, マンダル郡はズーンハラー国营農場となり, ズーンハラーに移管された。「ツェツェルレグ」牧畜協同組合は国营農場に統合された。1976年にオルホントール国营農場のノムゴン分隊を独立させた。

3. 1992年に民営化された。モンゴル国大会議の1994年5月6日の第36議決により、セレンゲ県ズーンハラー市をマンダル郡に統合させ、マンダル郡となった。
4. ズーンハラー川付近。
5. 郡長として B. Tsogtzanaa, Hürlee, D. Daramjav, D. Tsedev, J. Javzandorj, O. Dorligsüren (1992-1996), H. Düngee, Ya. Jigjid (1996-2000), H. Düngee (200-2004), B. Tseepildorj (2004から現在まで)。労働英雄, 有名な養豚家 Ts. Bunia, 1981年セレンゲ県ズーンハラー国営農場の一級の養豚家第二チャンピオン Densmaa らが働いていた。1986年はウシ遊牧民 T. Dagva が労働英雄になった。
6. ハラー国営農場の耕地面積および作付面積は以下のとおり (単位は千 ha)。

1924年	600/150
1925年	700/150
1926年	800/200
1927年	1370/677.5
1928年	2249/896.5
1929年	2356/1770

1965年に耕地418,600ha, 委員数687人, 国家家畜24,700頭, 1,400,000トゥグルグの収支, 1,800,000トゥグルグの資本があった。

1992年には2,521人の木工場, 人民軍, 鉄道駅, 10年制小中学校, 医科学校, 国有私有合わせて家畜6,000頭であった。県中心地から240km, 隣の郡の中心地から40km ぐらい離れている。主たる産業は木工で, これから発展可能な産業, 自然資源, 金鉱があり, 美しい自然を利用して観光を発展させる可能性が高い。トゥンヘルの中心地から東方および東南方へヘンティー山脈の森林が連なり, この方向にトゥンヘルの中心地から100km ぐらいの道路をつくり, 木工場とした。
7. 1937年に囚人を国営農場で労働させるためにハラー国営農場を農牧省から内務省に移管し, 1933年から35年に国から借入した263,117トゥグルグを払い戻すよう決議された。国営農場, 牧畜業, 金鉱採掘場があり, ヘルヘ村, トゥンヘル村がある。ズーンハラー市には1952年にズーンハラーの鉄道ステーションの影響で4つ区の行政を設立した。
8. Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更 (1991-1997)』

37) バヤンチャンドマニ国営農場

1. 中央県バヤンチャンドマニ郡。
2. 1958年に農牧省の機械修理所という名称で当初設立された。
3. 1979年に軍隊に供給する目的で設立された。

- 4.
5. 国営農場を建設した際には、Samdankhüü が農場長をつとめた。
- 6.
7. 1963年に中心をホロー地区とし、ほとんどの小隊 (bag) はボルノール国営農場に移った。1981年から科学技術実験農場となった。
8. L. Khenchyakhav 2008 『中央県の人びとの伝記』

38) ジャルガラント国営農場

1. 中央県ジャルガラント郡。
2. 1929年にジャルガラント国営農場を設立した。1931-32年の極左派の失策により1933年に閉鎖した。1957年に人民大会議の決定により再開し、穀物工場を中心として、独立した大きな経営体となった。1945年までに国営農場に付属していたが1945年から家畜農場省に移管された。
3. 1976年にジャルガラント国営農場からオクチャブリ国営農場を分割独立させ、1991年に民営化した際、3つの会社と1つの有限会社ほか数十の組合などに分割された。主な有限会社はアルツァット、ジャラガラントで1996年まで営業した後、有限会社となった。
4. 中央県ジャルガラント郡のハラー川から東南、ジャルガラント、オクタール、アギト、ザグダル、ズーヒイホンディーを含む242,000haほどの広大な領域をもつ。
5. 1939年から公営農場長に Damba, Ölzii, Davaajav, Tunsag, Tseren-Ochir, Pürvee, Sosorbaram, N. Ariya らが任命され、N. Ariya が労働英雄になった。モンゴル国の農業の最初の労働英雄は、農業大学の教員 TserenOchi である。また、党書記の N. Dashnyam は国営農場の党組織を指導する人びとのなかで最初に労働英雄の称号を得た。
6. 1945年にソ連の援助により、開拓や穀物収穫などの重労働を機械化するための機材を設置し、7,000ha ほどを開拓した。1960年代から532ha の灌漑設備をそなえ、果樹部門を発展させ、1970年代にジャルガラント国営農場の黄金期として46,000ha の耕地、30,500ha の穀物、300ha のジャガイモ、100ha の野菜、1,200ha の飼料作物、40ha の果樹を栽培し、10,000t の干草を用意した。40,000頭のヒツジ、1,000頭のウマ、4,000頭近いウシ、400-2,000頭の機械化された酪農場、35,000羽の養鶏場、100頭を基礎にして50頭の牝を再生産させる養豚場、170台を修理できる修理場3箇所、70台収容できるガレージなどがあった。1960-1970年に国営農場の発展が進展し、商品生産を3倍に増やし、現在、国営農場は44,000ha 耕地があり、毎年およそ30,000余 ha 耕地に穀物、ジャガイモ、野菜、家畜の餌、果物を作付し

ている。農場作業は完全に機械化された。

7. 1954年にジャルガラント国営農場の周辺にジャルガラント郡を設立した。この国営農場からバローンハラー、スムベルなどの国営農場が独立した。

1940年から農業を牧畜部門とともに発展させる目的で、細毛ヒツジ、肉乳用純血種のウシ、駿馬群を発展させようと努力し、農業が牧畜の集約的發展に貢献してきたと判断し、1941年に労働栄誉赤旗勲章で表彰した。また政府の信任状でも6回表彰された。

8. Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更（1991-1997）』
Ö. Bavuu 2001 『セレンゲ史略』

39) ボルノール国営農場

1. 中央県ボルノール郡。
2. 当初の数年間の設立経緯については不明だが、1927年の報告によりボルノール国立経営体だったことがわかる。1931-32年の極左派の失策により1933年に閉鎖した。1959年に人民小会議の議決により、バトゥルジー郡によってボルノール国営農場を設立した。変遷は以下のとおり。

1931年 バトスンベル郡

1938年 バヤン・ウルジート郡

1951年 バヤンチャンダマニ郡

1959年 ボルノール郡

3. 1991年、ボルノール国営農場はボルノール有限会社、シャルホーロイ、ダワーンボラグ、マンダルナラン会社に分割民営化された。
4. シャルホーロイ。
5. D. Nandintsetseg は1955年混血ウシ各1頭から1,700ℓを搾乳し、B. Lkhagva は1977年28ウシから29の子ウシを育てて、モンゴル人民共和国の若手チャンピオン遊牧民になった。搾乳者のM. Chimgeed は1983年、各ウシから5,936ℓを搾乳し、合計148,600ℓを搾乳して、労働英雄になった。
6. ボルノール国立経営体は700デシャーティンの耕地、500デシャーティンの耕作準備地を開墾していた。1976年にドイツの乳用ホルスタイン種の3歳牝を1,200頭受け入れた。
7. 1962年からバヤンチャンダマニにある「エルネスト・テリマン（東ドイツ共産党書記長）記念ザムティン」牧畜協同組合をこの国営農場と統合してからますます発展した。

さらに、ドイツの技術でドイツの専門家と共同作業を実施し、ウランバートル市

に供給するジャガイモ、野菜の20%ぐらいを生産し、乳用ホルスタイン種400-800頭の牝ウシ、720頭の3歳牝ウシ用の機械化された畜舎、3500の混合飼料をつくる工場、7200mの温室、役所、公民館、病院、学校、工場等のある大きな中心地となった。ボルノール国营農場は70haの放牧地で牧畜部門を始めた。第5次、第6次5ヵ年計画で、400-800頭の牝ウシをもつ機械化酪農場が利用を開始した。

1973、1975、1984年にジャガイモおよび野菜の収穫でモンゴル革命青年委員会中央、農業生産省、牧民共同組合委員会からの競争で第1位、第2位となり、20,000-60,000トゥグルグの賞金を受賞した。ドイツのアステッラ品種のジャガイモをモンゴルで生産し、定期的に作付したことで、10回も国家級チャンピオンになるブリガードとなった。モンゴル国中で最大の灌漑システムを利用し、多様な野菜をつくり、4,000tのジャガイモを機械化された保管庫に保管したり、販売したりした。また、3,500tの混合飼料を製造し、7,200tの野菜を温室で促成栽培し、キャベツのベリルース-85種やシール-6種などさまざまな種類の野菜が促成栽培された。

1983年にドイツの援助でガラス製温室が建設され、1984年に13人で農場を始め、促成栽培の野菜、キャベツ、キュウリ、トマト、玉ねぎ等をつくり、国家計画を超えて生産していた。

8. L. Khenchyakhav, B. Galbadrakh, L. Losol 2008 『運命を開いた故郷』
Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更 (1991-1997)』
M. Erdenedalai, J. Sürenkhorloo 2009 『中央県の農業50年史』

40) バトスンベル国营農場

1. 中央県バトスンベル郡。
2. 1931年2月7日の国家小会議の第5議決により、ボグドハーン盟ノヨンオール旗から設立した。1930年代の極左派の失策により、事業は縮小され、慣習的に耕作していた。1953年に再興された。
3. 1956年に閉鎖し、1959年にふたたび国营農場となり、郡と一体化した。
4. ソグノゴル、ジャルガラント、ウデレグ、バヤントルゴイ、オラーントルゴイ。
5. 1963年にD. Daramjavが国营農場長として働いていた。1961年にモンゴル人民共和国の最初の労働英雄となった野菜栽培者D. Dolgorが働いていた。ほかに労働英雄として、1971年に養豚者S. Ravjaa、1981年に搾乳者Ts. Khorlooがいる。
6. 1haあたりの収穫は、1980年で小麦8t、ジャガイモ77.6t、野菜167.9t、飼料36t、配合飼料47.9tであり、1984年で穀類6.8t、ジャガイモ171.8t、飼料111.8t、野菜107.6t、飼料すべて118.8t、配合飼料134.5tであった。

作付面積は、ジャガイモ300ha、野菜300ha。

400頭の牝ウシの酪農場2ヶ所、800頭の牝ウシの酪農場1ヶ所。毎年、5,000klの乳を供給していた。

4,000haの耕地で毎年4,000余klの乳、8,000tのジャガイモ、野菜の灌漑栽培、15,000,000-17,000,000tの施肥をしていた。

耕作部門は、1,000~2,500haで飼料用の穀類や他の植物、600haのジャガイモや野菜を栽培していた。

7. 1933年、バトスンベル国営農場は首都の労働者たちに乳と野菜を供給する目的で、バグ7つ、657戸2,100人、家畜4,890頭で設立され、1,000,000,000トゥグルグの純利益があった。
8. Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更（1991-1997）』
B. Dashzeveg ら 2003 『中央県史略』
M. Erdenedalai, J. Sürenkhorloo 2009 『中央県の農業50年史』

41) ザローチョード国営農場

1. 中央県ツェール郡。
2. 閣僚会議1976年10月19日の第356議決により設置。
3. 1990年に分割民営化。
4. 中心地はオルギル。
5. 初代農場長は労働英雄 B. Batchuluun, 農業技術者 D. Damdinsüren, エンジニア D. Tsagaan, マネージャー Sosorbaram らがリーダーとなって始まった。
6. 穀類工場には、ダルハンの植物研究所やソ連から専門家を招聘し、ソ連の高度な T-150トラクター、KPE-3.8, KPSH-5, KPSH-9, SZS2.1, SZS-3.6という播種機や、Big-3, KPG-250などの機械類を導入し、土壌風食を防ぎながら、26-42ツェントネルの収穫を得ていた。
7. 1976年、オクタール国営農場のツェール分隊をもとにして穀類栽培と細毛ヒツジの飼育を目的に開始した。
8. Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更（1991-1997）』
M. Erdenedalai, J. Sürenkhorloo 2009 『中央県の農業50年史』

42) オクタール国営農場

1. 中央県オクタールツァイダム郡。
2. 当初、1925-1930年のあいだにハリウグチン・ボロルゾイ・オール旗に属していた

が、1938年からテール、ボガ、ウーシギーン・オハー、シール等の土地に移され、人びとはウーシギーン・アラ・ノムゴンに居住した。1936-1937年にソ連の援助でモンゴルに初めてつくられた機械で草を刈る12のステーションの1つが当郡に設置された。1944年にバターを生産する工場が設立され、工場長にN. Gombosürenが任命された。1959年にモンゴル人民革命党第9回会議の議決により、1961年3月27日、当該郡に初期のアタルにもとづく、国营農場が設立された。

3. 1980年代まで集約的であったが、1990年代から活動が劣化し、現在は名前のみとなった。1991年、当国营農場からオクタール株式会社が設立され、当国营農場の総合農業技術者G. Magvandorjが社長を務めた。1993年から4つの会社、9つの有限会社ほか46の組合で活動をするようになった。
4. 郡の東西端にオクタール山とツァイダム湖があり、両名を合わせて郡名とした。
5. 初期のアタルで当該地にやってきた76人は著名な人びとであった。たとえば、初期農場長のB. Batchuluunは1975年に労働英雄となった。また「アタルたちの金メダル」を農耕者J. Mönkhtogooが授与された。トラクターコンバインを扱うG. Altankhüüも労働英雄となった。
6. 167,300km²の平坦な場所で、143,300haの用地があり、郡およびアタル関係者あわせて4,000人がいた。最初の年に、15,000haを開拓し、国营農場として最初の年に1haあたり15ツェントネルを収穫し、1962年の収穫高は全国1位であり、党中央委員会幹部会議から巡回する赤旗（優勝旗）ならびに30,000トゥグルグで報奨され、穀類のノルマを超えたために党中央委員会幹部会議から信任状と150,000トゥグルグで報奨された。1970年代になると当国营農場は40,000km²の耕地になった。また、耕地48,200ha、33,000haに穀物を作付し、家畜数はおよそ60,000頭、年間に混合飼料や自然の穀物を21,000-22,000t収穫し25,000,000-26,000,000トゥグルグの生産量をあげ、22,000,000-24,000,000トゥグルグの商品生産し、5,000,000-6,000,000トゥグルグの利益をあげた。設立後の15年間に年間349,300t穀物を収穫する計画を370,900tつまり、106.4%に達成し、18,936,000,000トゥグルグの商品を生産し、543,000,000トゥグルグの利益を出した。5年間で39,800tの穀物を収穫し、国家に18,200tを納める計画を超え、115.7tのジャガイモはノルマの214%で、野菜栽培でも110%を達成した。家畜を繁殖させる計画についても、3年間に5種類で122%に達し、11,000頭の家畜で計画を超え、たとえば、ラクダ109.5%、ウシ124.7%、ウマ124%に達した。
7. 穀物栽培のみならず、飼料、野菜、干草なども発展した。穀類の収穫がよかったのは、1960年と、1973-75年で、1haあたり18-20ツェントネルで国や県のレベルで4-5回優勝した。国营農場に飼料農場も活動し、年間何百tもの混合飼料を製造した。1960年代から当郡にいくつかの国营農場が設立された。ザロチョーディー

ン国営農場, ジャルガランティーン国営農場, アタル, オクチャブル, バヤンツォグティーン国営農場等がある。

8. Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更 (1991-1997)』
M. Erdenedalai, J. Sürenkhorloo 2009 『中央県の農業50年史』

43) バヤンツォグト国営農場

1. 中央県バヤンツォグト郡。
2. 当初, 1929年にウボウル・ドラーンという場所に設立され, 初代郡長に Chültem 書記官が任命された。さらに1931年の3月に旗を閉鎖し, 郡と県が直接管轄することになった。1958年にバヤンツォグト郡が再び設置され, 1959年3月にモンゴル人民革命党中央委員会第3回会議の議決により, 国内穀物需要を満たすためのアタル計画にしたがって設立された。1962年にバヤンツォグト国営農場が公式に設立された。
3. 1990年に民営化。
4. ゴナ, ホンゴル窪地。
5. 郡長として Chültem (1929-1931), Dorj (1931-1935), Narangerel (1935-1936), Namsrai (1936-1938), Pürevjav (1938-1939), Tsog (1939-1941), Palam (1941-1942), Sundui (1942-1945), Bazarragchaa (1945-1946), Chagnaa (1946-1947), Janchiv (1947-1948), Rinchin (1948-1952), Demberel (1952), Dondogdorj (1952-1954), Jambaa (1954-1956), Chojjilsüren (1958-1959), Palam (1959), Dashnyam (1959-1961), Ishjamts (1961-1962), Dashzeveg (1962) らが任命されていた。1986年に労働英雄として搾乳者 P. Oyun, 最初のメンバー B. Sürenkhorloo, 3歳牡ウシのブリガード班長, トラクター運転手 B. Nayantai, G. Budyonin, D. Ochir, D. Tserenlei, Nordogjav らがいる。
6. 1962年4月に当地の牧畜協同組合を国営農場に統合した際, ラクダ348頭, ウマ7,026頭, ウシ2,510頭, ヒツジ27,621頭, ヤギ6,165頭, 合計43,670頭だった。当初は1961年2月29日, ドンダ・ウルトー (駅) の中国人農民が居住していた場所に, ゲル2張, 機械3台, 20人ぐらいの若者で開拓する目的で設立された。さらに1970年代になると当郡の国営農場は291,000ha, 森林9,900ha, 開拓された50,000haとなり, 700世帯2,600人のうち, 労働力として1,500人, コンバインとトラクターの運転手200人ぐらい, 遊牧民300人, その他労働者のうち建築およそ100人, 木工場に恒常的におよそ20人が働いていた。1962年に与えられた計画を178%で達成し, 全国1位となり, 50,000トゥグルグの報奨を受け, 1963年には国営農場の文化計画活動で県優勝を果たした。

7. シメンタール種, アルタウ種などの乳肉ウシを純血もしくは混血で飼育した。
8. T. Byambaa 1982 『モンゴル人民共和国の農牧業60年史』
M. Erdenedalai, J. Sürenkhorloo 2009 『中央県の農業50年史』

44) パルチザン国营農場

1. ウランバートル市。
2. 1977年に設立。
3. 1992年に, ウランバートル市ソングノハイルハン地区ジャルガラント村になった。
4. 1921年に民族解放革命の「パルチザンたち」という地名になった。
- 5.
6. 毎年7,000klの乳を搾乳して国に納めていた。800頭の牝ウシのいる機械化された酪農場が2ヶ所, 400頭の牝ウシのいる(機械化されていない)普通の酪農場が1ヶ所, 200頭の牝ウシのいる普通の酪農場が1ヶ所。
7. ウランバートル市民の乳需要をほぼ満たすことができた。
- 8.

45) ガチョールト国营農場

1. ウランバートル市バヤンズルフ地区第20区ガチョールト村。
2. 1961年4月19日, 閣僚会議第181議決により, 中央県バヤンズルフ郡(のちのエルデネ郡)のウリヤスタイ, ダルヒト, ホワンダイの酪農場をもとに, ウランバートル市における酪農製品の需要を満たす目的で1,340頭の家畜と, 70人ほどの労働者で組織された。
3. 1993年に民営化された。
4. ガチョールトというところはウランバートル市から21kmに位置し, バヤンズルフ・ハイルハン山の北側, トーラ川のツァガンという河畔丘の, アルタンという支流にそそぐ小川の名称に由来する。
5. モンゴル労働英雄の搾乳者 Galdangiin Zina は1971年にこの農場から労働英雄になった。
6. 1958-1959年にソ連から導入したセメンタール, 黒まだらの品種があった。ウランバートル市の北東ダムバダルジャーにある「記念チヨイバルサンの道」牧畜協同組合を1962年にガチョールトと統合した。1976年に131,500haの土地, 13,089頭の家畜, 806人の労働者, 45,200,000トゥグルグの資本金があり, 毎年8,800,000トゥグルグの利益をあげていた。酪農場は10箇所あり, なかには800頭の雌ウシのい

る機械化酪農場と、1,400頭の雌ウシのいる SFM, SEF-8が機能し、搾乳目的の巨大な国営農場であった。

7. ウランバートル市民に酪農製品を供給する目的で、もっとも近郊にある国営農場であった。
8. L. Khenchyakhav 2008 『中央県の人びとの伝記』

46) アタル国営農場

1. 中央県バヤンハンガイ郡。
2. モンゴル人民共和国閣僚会議1976年10月19日の第356議決により設立された。
- 3.
4. 中心地はバヤンハンガイ。第1次アタル運動で開拓したところである。1992年。
5. 最初の農場長は S. Tamjid で、D. Dorjpalam, N. Urtnasan, J. Nyamdavaa, L. Byambasüren, Y. Altansükh らが続いた。
6. 1986年の業績は県のトップで、第7次5ヵ年計画の4年のうちに、家畜飼育、干草準備、穀類栽培、ジャガイモや野菜栽培でノルマを100-140%達成した。
1 haあたり、1980年で穀類2.0t、小麦3.6t、ジャガイモ40.0t、野菜90.0t、飼料すべて15.0tであり、1984年にはジャガイモ190.0t、野菜21.0t、飼料すべて31.5t、配合飼料103.2tだった。
7. 1977年にルン郡の領域で穀類と肉用家畜の生産を目的として設立。第2次アタル運動が全国的に展開し、10ヶ所の国営農場が設立されたうちの1つ。
8. Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更 (1991-1997)』
B. Dashzeveg ら 2003 『中央県史略』
M. Erdenedalai, J. Sürenkhorloo 2009 『中央県の農業50年史』
D. Oyunchimeg 2007 『バヤンハンガイ故郷；郡国営農場設立30周年記念』

47) ノホルロル国営農場

1. 中央県アルガラント郡。
2. 1976年10月19日にバヤンツォグト郡に設置。
3. 1990年に民営化。
4. アルガラント。
5. 初代農場長として1976年にエンジニアのB. Damdinsürenが指名された。1987年からD. Sanjimyatavが任命された。
6. 1991-1997に、21,000,000-53,000,000トゥグルグの税金を郡予算として計上し、

16,000,000-26,000,000トゥグルグの利益を出して社会保障基金に投資した。

7. 穀類と家畜部門を目的とした。1977年にノホルロル国营農場をもとに、アルガラント郡を設置。1990年代からは、野菜中心から小麦、穀類、ジャガイモ、大麦、じゅうたん、工芸などを開始し、200人近くが働いていた。
8. Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更 (1991-1997)』
B. Damdinsüren, B. Khütükhenbaatar, B. Bazar-Adiya, B. Magsarjav 2007 『アルガラントの人びと』
M. Erdenedalai, J. Sürenkhorloo 2009 『中央県の農業50年史』

48) アルホスト国营農場

1. 中央県アルホスト郡。
2. 1969年当初は牧畜目的で設立。
3. 1991年。
4. ションハライ丘、ボーロルジュート窪地。
5. 学校コンビナートの初の卒業生である、P. Darjaa, B. Abirmed, A. Dorjsüren, T. Rentsenら20余人の若者がションハライ丘に500haを開墾したのが始まり。
6. アルホスト国营農場の耕地は1969年、アタル第1次運動の結果、10,000余haとなり、穀類のほかトウモロコシ、エンドウ、ジャガイモなどの野菜を栽培した。
7. 1955年にアルホスト国营農場をもとに、トラクターやコンバインの操作を習得する学校コンビナートを創設した。この国营農場の基盤の1つが穀類部門であり、専門家を現場で育成した。1974年にアルホスト郡をエルデネ郡と統合した際、国营農場の家畜をエルデネ郡の「モンゴル・ハンガリー友好」牧畜協同組合へ移管した。
8. Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更 (1991-1997)』
M. Erdenedalai, J. Sürenkhorloo 2009 『中央県の農業50年史』

49) ヘルレン・バヤンオラーン飼料農場

1. ヘンティー県デルゲルハーン郡。
2. 1974年にヘルレン・バヤンオラーン・オトル飼料ステーションという名で設立。
3. 1992年に民営化。
4. ヘルレン川の東方にある1000の冬営地と言われるバヤンオラーン山にちなんで命名された。
- 5.

- 6.
7. モンゴル人民共和国人民大会議で1974年7月27日の第204決定により、ヘルレン・バヤンオラーン地区を設立。同年12月27日に閣僚会議第561議決により、オトル飼料ステーションにした。
8. Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更（1991-1997）』

50) スンベル国营農場

1. ゴビスンベル県スンベル郡。
2. 1969年設立。
3. 1992年に私有化法により民営化した。ゴビスンベル県を設立する際に1つの郡となった。
4. スンベル山にちなんで命名された。
- 5.
6. 黒ヒツジを繁殖する目的で設立された。黒ヒツジの毛を1歳時に取り、毛皮工場に提供していた。
7. 旧オツォル・サンサル・オール旗およびモンゴル仏教の大規模センターであったチョイリーン寺院の地に設立した。
8. ゴビスンベル県のウェブサイト。

51) チャンドガナ国营農場

1. ヘンティー県ウルジート地区。
2. 閣僚会議1976年10月19日第357議決により設立。
3. 1992年。
4. ヘンティー県中心地にあるチャンドガナ平野にちなんで名付けられた。
- 5.
- 6.
7. 穀類栽培および細毛ヒツジ市域の目的で設立。
8. Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更（1991-1997）』

52) ホルフ国营農場

1. ヘンティー県ウムヌデルゲル郡。
2. 1981年に設立。

3. 1992年に閉鎖。
4. ホルフ平野にちなんで命名された。
5. 初代農場長にアルハンガイ県チョロト郡出身の荣誉経済学者 Chuluunbaatar が任命された。
- 6.
7. ヘンティー県ウムヌデルゲル，バタノロブ，バトシレートの3つの郡境地域から設立された。1980年代に設立させた数少ない農場の1つである。
- 8.

53) オンドルハーン国营農場

1. ヘンティー県県庁所在地オンドルハーン市。
2. 閣僚会議1954年5月18日第187議決により，最初の国营農場として設立。
3. 1992年。
4. 中心地はボヤント。
5. 設立当時の関係者として農場長 Ölzitogtokh，党組織者 Yondon らが重責を果たした。人工授精専門家 Agvaanbaldan は4年間続けて3,000-5,000頭のヒツジを妊娠させ，1頭の種牡から250-400頭に人工授精し，毎年80-92%の受胎率だった。
6. 運搬用車両 ZIS-5, GAZ-51, GAZ-63など10台，農業用機械30台になった。1954-55年に初めてトウモロコシを50ha，大麦72ha，燕麦93haを作付て事業を開始した。
7. 当初，42人で設立。
8. Ts. Sodnomdagva 1998『モンゴル国の行政区域変更（1991-1997）』

54) テウメンツォグト国营農場

1. スフバートル県トゥメンツォグト郡。
2. 1960年。
3. 1992年に閉鎖か？
4. トウメンツォグト山にちなんで命名された。
- 5.
- 6.
7. ウランバートル市から490km，バローン・ウルトから140km，ドルノド県中心地から200km，ヘンティー県から150km 離れている。郡の領域は250,000ha，北から南へ55km，西から東へ50km，国境線の長さは213kmである。トゥメンツォグト郡にハル・ヤマーティーン山，イネーデグ岩，アラスラン岩，ジャンバルナブ洞窟な

ど珍しい地形の風光明媚な場所がある。また、以前使っていたウォルフラム、石灰岩、赤鉄鉱、カオリン、シェール等30種類の鉱物や自然資源がある。当郡には400種類の植物があり、岩弁慶^{いわべんけい}、アңыз、葉草の弟切草^{おとまりそう}、モーリュ、ニワトコ等以外に、ヨモギ、リーキ、野生の玉ねぎなどの瑞々しい植物、草深いプラント、カモジグサ、シバムギ、麻黄^{まおう}、あざみなどの牧草がある。

8. Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更 (1991-1997)』

55) バヤンオール国营農場

1. ドルノド県バヤンオール郡。
2. 1950年オノン国营農場の名で設立。
3. 1990年代。
4. オノン川沿い。
- 5.
- 6.
7. 天然牧草飼料を目的として設立。1961年「ホルボー」牧畜協同組合を閉鎖し、オノン国营農場と統合した。
8. Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更 (1991-1997)』

56) チョローンホロート (エレーンツェブ) 国营農場

1. ドルノド県チョローンホロート郡。
2. 1957年に最初に設立された。
3. 1992年。
4. 1959年に国营農場を新行政区に加えて、郡名をチョローンホロートとし、国营農場をエレーンツェブと命名した。
5. 初代農場長は B. Nyadaa が指名された。農業技師は D. Jigmed。
6. 1972年にこの国营農場の機械修理工場はソ連の援助で建設された。
7. 穀類栽培と牧畜をセットで管理する目的で、閣僚会議の議決により、1961年に領域内を考察し、エレーンツェブに移した。ヒツジの飼育を中心とした。ソ連の援助により、他の国营農場と同様に、機械化酪農場やウシの屠殺場などを建設した。
8. Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更 (1991-1997)』

57) ヘルレン国营農場

1. ドルノド県ヘルレン郡。
2. 1959年に設立。
3. 1992年に閉鎖。
4. ヘルレン川にちなんで命名された。
- 5.
6. 1968年、国营農場にソ連の援助で農業用自動車修理工場を建設した。
7. ジャガイモ、野菜、農耕部門を目的とした。30,000羽を飼育し、毎年6,000,000-10,000,000個の鶏卵を生産できる養鶏場を建設した。
8. Ts. Sodnomdagva 1998『モンゴル国の行政区域変更（1991-1997）』

58) サルヒト飼料農場

1. スフバートル県バローンオルト市。
2. 1961年に設立。
- 3.
4. サルヒトという地名にちなんで命名された。
- 5.
- 6.
- 7.
8. Ts. Sodnomdagva 1998『モンゴル国の行政区域変更（1991-1997）』

59) スンベル国营農場

1. ドルノド県ハルハゴル郡。
2. 1972年1月14日の閣僚会議の第7議決により、ドルノド県のハルハゴル国营農場という名で当初設立された。1975年から利用開始。
3. 1992年にハルハゴル郡のバグとなった。
4. スンベル山の南側。
5. 1981年労働英雄トラクターコンバイン技師 R. Pürvee。
6. ジャガイモ、野菜、農耕部門を目的とした。土壌風食を防ぐために条蒔きする方法を国营農場の耕地の30-80%で実施していた。自動散水は400-1,000haで可能な設備を整え、家畜用飼料、ジャガイモ、野菜を栽培した。1978年にウシの屠殺場をソ連の援助で建設した。ソ連の援助やソ連人の建築家によって設立された当農

場は肉用ウシを飼育し、非灌漑耕地や灌漑耕地の計17,000haに飼料や穀物を栽培し、年間13,000tの草を刈ることができる機械化されたブリガードが活動していた。1978年に18,000haの耕地となり、毎年13,000haを作付した。

7. 1972年6月20日人民大会議の第117決定により、ハルハ川にある試験場を管理する地区をスンベルと命名して国営農場も兼ねて所掌する郡にした。ソ連の援助で他の国営農場と同様に、機械化酪農場やウシの屠殺場などを建設した。
8. Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更（1991-1997）』

60) シャリングル国営農場

1. ダルハンオール県オルホン郡。
2. 1959年にソ連の援助で、モンゴル・ソ連友好記念ダルハン優秀種国営農場を設立。
3. 1992年に閉鎖。
- 4.
5. ソ連の専門家 M. B. Kruti が顧問団長として働いた。
6. 同郡は現在37,060頭の家畜、高益なトリ、ブタ、ウシの農場をもつ。
7. 12-20人規模で1980年代末まで活動した。
8. Ö. Bavuu 2001 『セレンゲ史略』

61) エグウール国営農場

1. フブスグル県エルデネボルガン郡。
2. 1959-1960年。
3. 1992年。
4. エグ川沿い。
5. ヤギ遊牧民 Sanjaajamts は、毎年500-550ヤギを育て100%育成した。
6. 1960年に1,000haで最初の播種をし、秋に3,900tの収穫を得た。
7. 1963年の閣僚会議の議決により、国営農場の目的を変更して乳用ウシの飼育を目的とすることになった。1975年には閣僚会議の議決により、エグウール国営農場を穀類栽培の目的にしばり縮小した。1985年11月5日人民大会議の第240決定により、エグウール国営農場を再度設置した。
8. Ts. Sodnomdagva 1998 『モンゴル国の行政区域変更（1991-1997）』
S. Badamkhatan, Ch. Banzragch 1961 『フブスグル県略史』

62) オルズ国营農場

1. ドルノド県バヤントゥメン郡。
2. 1930年4月7日の第6回国会の決定により、オルズ国营農場となった。1931-32年の極左派の失策により、1933年にほぼ閉鎖した。1960年に国立人工授精ステーションという名称で設立された。
3. 1992年。
4. オルズ川沿い。
- 5.
6. 設立当初、ソ連の優良メリノース種ヒツジを1,330頭と、国内から30,000頭を購入して準備し、家畜を増やした。1974-1990年のあいだ、400頭の牝ウシのいる酪農場、1,000haの灌漑設備などが利用されていた。
7. ジャガイモ、野菜、耕作部門を目的とした。
8. T. Byambaa 1982『モンゴル人民共和国の国营農場60年史』

63) タムサグボラグ国营農場

1. ドルノド県マタド郡とハルハゴル郡の境。
2. 1954年閣僚会議の第180議決により設立。
- 3.
4. タムサグボラグという場所。
- 5.
6. 1960年1月閣僚委員会の第19議決により、タムサグボラグ国营農場はスフバートル県のハンホヒー山の南麓のハラ・ヤマティーン、ウォルフラム鉱山があった場所に移った。1972年から農耕のほかに優良在来種のウシを繁殖させるようになり、以来、牧畜と農耕の双方を営むようになった。1978年にソ連の援助で郡中心地を整備し、文化センター、110世帯の建築、幼稚園、学校、寮、病院などのある現代的な中心地となった。
7. 細毛ヒツジとウシを飼育する目的。
- 8.

64) ハリョーンボガ国营農場

1. ウランバートル市内ボグド山付近。
2. 1964年に設立。

3. 1992年。
4. ボグドハン山麓にある。
- 5.
- 6.
7. 天然草地で鹿を養殖し、その袋角を利用する目的で設立された。
8. D. Mandalsüren 1969 『モンゴル人民共和国の国営農場』

65) ソグノグル国営農場

1. 中央県バトスンベル郡。
2. 1931年、軍隊と、農牧省のウマ工場を統合して設立。
3. 1992年に民営化。
4. ソグノグル川。
- 5.
- 6.
7. ウマの飼育を目的とした。設立当初、イギリスから純血種の種牡ウマを30頭入れて混血種をつくり始めた。
8. D. Mandalsüren 1969 『モンゴル人民共和国の国営農場』
M. Erdenedalai, J. Sürenkhorloo 2009 『中央県農業50年史』

66) トウルホラハ国営農場

1. ウランバートル市周辺。
2. 1963年ごろ。
3. 1992年に民営化して移動。
4. ボグド山（現在の呼称はボグドハーン山）の北側にあるトウルホラハ川の口、トール川沿い。
- 5.
6. カワウソ、銀キツネなどを繁殖させた。
7. 毛皮動物の養殖を目的としていた。
8. T. Byambaa 1982 『モンゴル人民共和国の農業60年史』

67) バヤントーロイン飼料農場

1. ゴビアルタイ県ツォグト郡。

2. 1987年のモンゴル人民共和国閣僚会議の1987年4月3日の議決で1987年4月16日にバヤントーロイ飼料農場が設立された。
3. 1996年に民営化され、トーロイ・ブルド会社となって営業を継続させ、新しい機械と優秀な産業を導入し、アルタイ地域のビジネスマン Batjargal が社長として勤めた。
4. トーロイというゴビにはえる木のある場所にちなんで命名された。
5. バヤントーロイン飼料農場の初めての農場長に T. Arildii, S. Shagdar, 会計課長に G. Namnansüren, 総合農業技師に L. Badarch, D. Ariunmönkh, B. Myagmarjav らが任務されていた。当飼料農場から J. Gombo が国家チャンピオン, B. Rentsen, Z. Donrov, O. Dashtseren, N. Batdorj, Sanjsüren らが北極星勳章でそれぞれ表彰された。D. Batchuluun, A. Tsevegmid, Baldan, Namjilstüren, Mönkh-Ochir らが政府賞で表彰された。B. Shazeveg が初めてツォグト郡のネグデル長を勤めた時, Shugui, Haya の灌漑システムを作ったことが飼料農場の基盤となった。
6. 800ヘクタールほどの面積で飼料を作る目的で牧畜業, 果物, 野菜を栽培して事業を始めた。ザホウイン・ゴビでは麦, トウモロコシ, 小麦を栽培し, 大麦, 飼料を作って, 人間を食品で, 家畜を飼料で供給していた。これ以外にもリンゴの木やチャツアルガナの木を植え, リンゴを売買する食品産業も行っていた。現在は年間2-12t 果物を収穫し, 1日に8-12tの生産力のある小麦工場, フェルト工場, 大麦, ジュース, パン, 石鹼工場と野菜工場が営業している。
7. 当飼料農場は, 西部の飼料農場を拡大させ, 灌漑農場を發展させ, 温かい地域を利用して年に2回収穫するという目的で設立された。当飼料農場の農耕地域はザホウイン・ゴビである。果物は120-160日で収穫し, 温かい季節は気温42-45度, 土壌は65度まで上がり, 降水率は少なく, 砂漠の軽い土壌の多い地域である。地元の人びとは伝統的に牧畜と農耕の双方をおこなってきた。この地で農業をおこなう大作業として, アルタイ山脈の降雪, 降雨の水を利用して高さ34メートルのダムのある灌漑施設をつくった。灌漑システムはおよそ1000ヘクタールで, 年に2回収穫した年度もある。
8. バヤントーロイン国营農場のゴビ保護区の区長で勤めていた故 A. Avirmed の話による。

68) ダルハン国营農場

1. ダルハンオール県ホンゴル郡。1932-1959年にダルハン郡と呼ばれていた。1959年からホンゴルと名称された。郡中心地はボーラル。
2. 1965年からセレンゲ県ホンゴル郡に属した。1982-1992年のあいだ, ダルハン県ホ

ンゴル地区、ダルハン国営農場と命名されていた。

3. 1994年にダルハンオール県のホンゴル郡として設立され、ダルハン国営農場は閉鎖された。
4. 郡中心地は、当郡の領域内にあるボーラル山にちなんで命名された。当初、国営農場が設立された際、郡の名前はダルハンの北に連なるノヨンホンゴル山にちなんで命名されたが、当時の社会主義理論によれば、ノヨン（貴族）という単語は避けなければならない、ホンゴルだけとんった。
5. アタル第1次運動で、1959年3月、現在の新旧ダルハン市のあいだにあるホルトからボルハント窪地までのあいだ、ホンゴル郡第2バグに住むD. LantsavがDT54トラクターで開墾した。国営農場の代々の農場長はA. Badarchin, B. Sanjaajamts, D. Zagdgochoo, Chuluunである。労働英雄はJanchav, 総合農業技師Badantseren。栄誉総合エンジニアO. Rentsenkhand, 総合畜産技術者Ch. Gendenjav, 獣医N. Dorj, Terbishらが働いていた。ダルハン国営農場は1968年にダルハン市中心から、郡農場中心地を建設して現在のホンゴル郡に移動した。アタル第1次運動の成果でつくった20kgのパンは当時の国民大会議議長J. Sambuuに手渡された。
6. 穀物部門8ブリガード、ダルハン市民に乳を供給する目的で乳肉セメンター純血種の牝ウシ800頭を収容できる機械化酪農場「トゥブ」、シャリングル地区住民の需要を満たす目的で400頭の酪農場「ボルト」が機能していた。ホンゴル郡は253,300haで、これは県全体の77%を占める。農地32,100ha, 1,400世帯5,100人がいて、人口の17%つまり656人をカザフ族が占める。家畜数124,400頭。ウランバートルから197km, 県中心地から25km離れている。
7. 1977年からモンゴル・ソ連の友好記念国営農場となり、1988年から優良穀物農場として知られた。そもそも、アタル第1次運動で1959年3月に設立された4つの国営農場の1つである。国営農場が設立される以前にはセレンゲ県ダルハン郡の「モンゴル・ソ連友好記念」牧畜協同組合であり、その東部地域をアタル第1次運動の対象地域とし、新しい郡の国営農場を設立するという課題を県地方政府が中央政府に決定させた。政府の決定にもとづき、セレンゲ県ホンゴル郡にダルハン国営農場を設立し、ソ連の援助で整備してモンゴル・ソ連友好記念国営農場とした。
- 8.